

斐太後風土記

大野郡

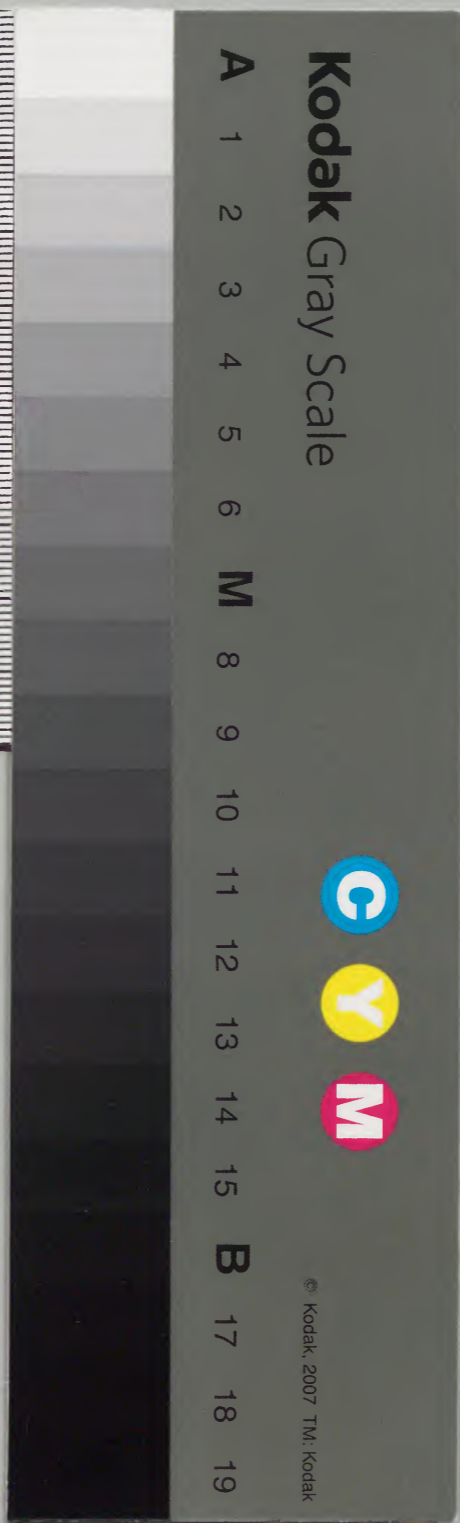
卷之三

和書門	二二六〇四	一三〇	二〇
類	號	函	冊

和書	二二六〇四	二〇	七四
類	號	冊	函
架			

地八一

内閣文庫	
番號	和 22604
冊數	20 (5)
函號	174 191



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

同四



斐太後風土記卷三

富山礼彦謹撰

小八賀郷 大野郷 九郷内 二十七箇村

小八賀郷ハ和名抄ノ山口郷ヲ、後ニ更カル郷名ナルベシ、又今ノ名義ノ考ハ、

大八賀郷ノ始ニ記マリ、此一郷ノ内、山口村 町方村 坊方村

大谷村 瓜田村 法力村 殿垣内村 小本曾村 大萱村

下坪村 下保村 細越村 桐山村 新張村等十四箇村

ハ御年貢、三分二金納、三分一米納也 小野村 根方村 白井村

蘆谷村 板殿村 日面村 日影村 塩屋村 駄吉村

旗錐村 久手村 岩井谷村 池保村等十三村ハ、三分二金納、三分一

小野村ヨリ十三村ヲ、俗ニ八賀奥村ニト云、鞍岳麓、又其タケ近ノ高地ニテ、極寒郷歟、稲ハ不登、依之稗ト雜穀ノミ作リテ、露命ヲツナケリ、

大豆納也、是ノ奥山里ニテ、地脉甚高ク、水田少ク、稗ハ登レ、稲ハ登ラザル故也、

稲延、且日用ハ草履、草鞋繩等ニ用ル、藁造モ、坊方町方、其外村々ヨリ、買入ホドノ貧村ニ、然レニ蕪カ管ハ、地味ニ底、至大ノ宝珠カララ作り、高山街市、娘村、

賣出シテ、其價ヲ以テ、米、塩、茶、繭、席、蓆、草、等ニ、代替テ用米セリ、

○日抱尊宮 飛州志云、小八賀郷、小野村、根方村、板殿村、日面村、日影村、旗鋒村、岩井谷村、久手村、池、俣村、瓜田村ニリ、祭神未由未詳、按ニ、其村里ゴトニ、民ノ唱フル處、聊異ニテ、別神ノ如ク思ヘリ、所謂日抱尊ヒダキソ 抱尊 以上四稱アリ、所謂日抱ノ一神ヲ誤テ、傳フルナルベシ、或曰、焼火ナルカ、焼火ハ式内ニ、比奈麻治姫命云々、又曰日本紀、旧事記等ニ、嘗不合尊、褻其兒、自抱而入海云々、古事記曰、沙本姫命、抱其御子云々、是皆天孫日神ナルガ故ニ、日ヲ抱ク氏可稱ニヤト有、此撰者、日本紀神代卷ノ、五十猛神ハ、延喜神名式ノ、紀伊ノ國名草ノ郡ナル、伊太祁曾神ナルヲ知ラス、日抱ノ字ニ泥ミテ、牽強セシメテ可笑、伊太祁曾神ノ御事ハ、其村ノ條下ニテ云ベケレド、此村里ノ民ハ

田畑少ケレバ、何レモ山ノ地理ヲ考カテ、肥腴土山人木ヲ伐倒シトキ雜伏テ、其ヲ燒テ、其灰ヲ肥トシテ、穀物菜蔬ヲマキ蒔テ、豊熟ヲ得テ、人民露命ヲ繫キ、燒烟壑替ノ跡ニハ、桐、榛等ヲ植、又國用ノ白木ヲ伐出シテ、代替シテ米ヲ求メ、皆ノ木靈ノ恩頼ニテ、身ヲ保ツ故、其木種ヲ多ニ、播殖玉ヒシ、有功神ヲ、村毎ニ齋祭リ来レルハ、殊勝タル心ニ有ケル、本土他郷ノ山村ノ人民モ、皆此小八賀郷ノ民ニ習ヒテ、此五十猛神ヲ、齋祭リテ、御恩頼ヲ仰奉ラムヨシモガナ、日抱ノ神号ハ、中昔ノ村民等、小黠僧等ニ欺レテ、額ヲモ祭礼ノ幡ヲモ、誂テ書セケム、然エエニ、元祿ノ檢地牒ヲ始、宝曆ノ除地帳ニモ、然記シケム、其ヨリ後ニハ日抱尊ハ天照大御神ノ御乳母ナリ等モ

イフノリ甚歎クベキフニコソ

伊波奈之

是ハ鴨長明ノ方丈記諺下ノ出タリ、三才圖會山草ニ伊波奈之ハ江

州三井寺、山中有之、苗高二三寸、大如飄樹ノ葉而不尖撮地生ス、

二月開小白花、似虎耳草ノ花、三月結子、如青大豆、而圓、數

顆攢生、如揚梅樣、裹於葉交外、色青、内ハ紫黑色、小兒剥皮、

食、味微酸、見ユ、本土三郡ノ山ニアリ、此郷山口町方、新張等ハ上野

ニハ別テ多シ、田植ノ頃熟ス、ハサキ蜜柑ノ條ノ如キ、肉ト皮トノ間ニ、

嬰粟粒ホドノ、粉ノ白ク、又ハ黄ナルハ味酸鉄葉黒ニ成レバ、味甘クシテ

小兒ノ好ノミナラス、肴ニモ佳、備前國ノ郡名ノ般石利木ハ是ニハ非シカ

大豆

大谷組小野村 根方村 白井村

日面組日面村 日影村 旗鉾組 旗鉾村 岩井谷村 池保村 久手村

本草綱目云、大豆有黑白黄褐青斑數色、黒者可入藥、及作鼓、黄者

可作腐榨油、造醬、餘但可作腐、及炒食而已、トアリ、當國中ノ村

々ニテ、作ラヌ村ハ無ケレバ、當郷ノ内ニテモ、三組ノ村ノ地理ニ

能應ルニヤ、陸田ニモ山畑ニモ植テ、自然ニ豆ハ黄者カ多ク、肥大ニ

味最佳也、故金森領ノ頃ヨリ、年貢ニハ、大豆ヲ收納タリト云傳フ、

方今モ然リ、其餘ハ高山町ハ賣出ス、

蕪菁

右三組ノ村ノ地理ニハ、蕪菁モ相應、毎年十月ノ豚日ニ堀テ持出ル

ニ、莖モ葉モイト和ラカニ肥太リ長凡ニ尺餘根ノ色ノ赤キ、紅粉ヲ塗ル如ク、

其圓大ハ、民家ノ飯椀ノ如シ、目方二百目以上ノモリ何レモ味甘美ニシテ脆シ、他郡他郷ノ及ハサル處也、故ニハ賀蕪菁ト稱メ、高山市中ニテ争ヒ求ム、其種ヲ得テ時テモ、自然カタチハ似テ、葉モ莖モ、短ク瘦セテ、根モ小シ、

大麻

右三組ノ村々ハ麻モ繁茂シテ、六月土用マデニハ、其長一丈餘ニモ成テ、村家ハ宛然竹林中ニ棲ゴトシ、土用スキテ、大麻ノ下葉ハ一葉二葉、自然落ルヲ見テ、村毎ニ刈テ、多クハ糞扱テトシ、又ハ刈テ、數日ノ間、日ニ乾シテ、其ヲ水ニ浸シテ後、土中ニ埋、又ハ畑ニ積テ、古庭或ハ芥ヲ被置キ、日ヲ歷テ取出テ、篋モテ粗皮ヲ刮去テ、仕上ルヲ、最上トス故ニ白麻苧青麻苧神代ノ白丹寸手、青丹寸手ノ、可思合名有、其村ニテ

小八賀川

布ニ織テ着用ノ餘ハ、皆高山町、又ハ他國へ賣出ス、古シヘヨリ介リ、古シヘ、丹生川ト云シヨシ、土人云ツクテ、其ハ水源ハ鞍嶽ナル、大丹生小丹生ノ池水ハ流レテ池、俣村ニ出テ、其處ヨリ流来レハ成ベシ、郡界下保ノ枝村法吉ト、吉城郡三川村ノ境ニ中昔大堰ヲシテ、三川村、上廣瀬村等へ、水ヲ引テ陸田ヲ水田ニ為セリ、其大堰ニ支ラレテ、鱒モ年魚モ得ノホリ得ヌイヒ、又ハ丹生ノ川水ハ太カ寒冽ナレバ、鱒モ、伊具此モ、安治米モ、得スマ又氏イフ、

坊方下坊

千光寺記云、昔於國中庄園多被寄附別テ小八賀郷、坊方、下坊、以下村々、為修理職料、

米百四十石四斗
 豆三十石六斗
 大ムキ六石八斗
 小ムキ三石五斗
 大豆七石四斗
 小豆二石一斗
 アハ二石一斗
 ソハ一石五斗
 荏六斗二升
 粟十石八斗
 十サラニノ二百目
 楮二百五十目
 李一石二斗
 柿四百百顆
 大マニ三十目
 小マニ五十目
 布二十疋

山口村

高百二十五石七斗五升八合 縦十五町
横一町三間

山林段別本數不詳

家十七戸

人九十餘人

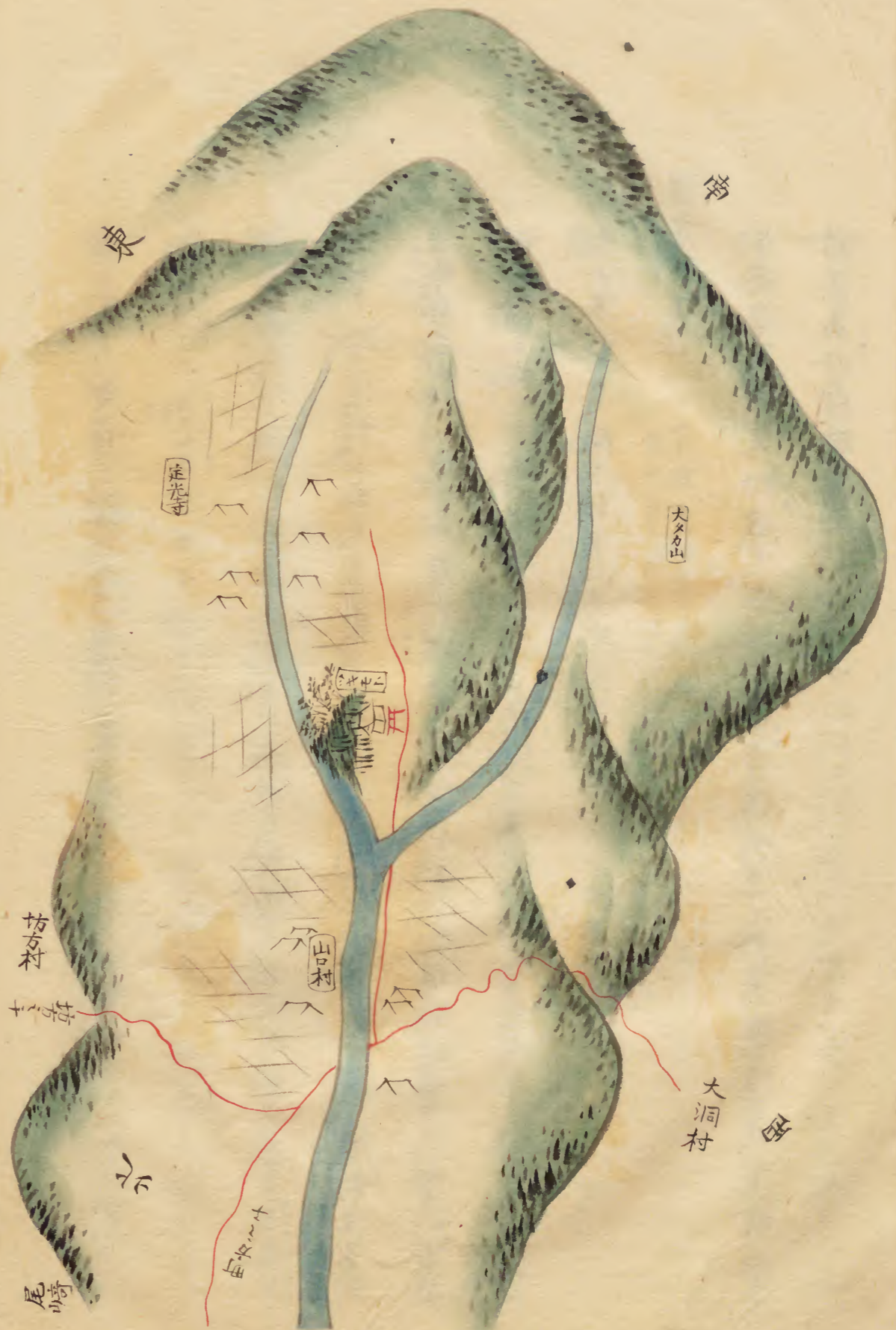
産物

大ムキ百 新楮 二百 麻苧 十三目
小ムキ百 蕪菁 カブラ 松茸 マツタケ 湿地草 シメジ 堅香子 カクカゴ
小ムキ百 布二十疋

東方坊方村、坂越十丁 西方大洞村、坂越十二丁

南方山 北方町方村、十丁 高山一里ヨ

村名義又郷名ノ條下ニ、此村ニハ大鷹鳥山モ一レバ、鷹鳥名ノ縁ニ由テ、
 山久知 鷹鳥ノ古名 ナルベシト云ケレド、猶熟考ルニ、此村ニハ式内ノ神社モ坐



セバ、必大鷹山諸本甚繁生ノ名山ナリ、山口ナルベシ、○和訓栞ニ、山口マツルハ、杣人

狩人ナドノ為ル丁ニ、伊勢、造宮ニモ、山口祭アリ、又山口シルキト云ハ、杣人、

木ヲ尋ネ、狩人ノ獸ヲ求ルニモ、山口ヨリ知ラル、ヲモテ、其始ヨリ、末

ノ見ユル意ニイヘリ、カニカクニ、大鷹山ノ、山口、村ナルベシ、

産土神モトノ、神社貞觀九年、從五位上、平均東西十三間南北九間半、面積百廿三坪半

祭神大山祇神、境内一畝六步、月元明神宮地ト除地帳ニ記、當時、縣令無字想像ベシ

三代實錄卷第十四云、清和貞觀九年丁亥、春正月壬寅朔、

天皇不受歲賀、七曜御曆云々等、所司付、内侍奏云々、二月癸卯、

所司獻剛卯杖如常、天皇不御紫宸殿、付内侍奏、以下本史ヲ見ルベシ

冬十月丙寅朔、停孟冬之宴會、五日庚子地震、授讚岐、國云々、伊

賀、國云々、飛驒、國水無、神在名、神、槻本、神、大津、神、荒城、神、栗

原、神、阿多由太、神、高田、神、云々、並從五位上、

礼彦謹按ニ、貞觀九年正月元日、歲賀ヲ受玉ハス、二日ニモ、紫宸殿

ニ、御マサハリシハ、去年貞觀八年ノ天下ノ飢饉、變災等本史ヲ見マシ

思食テノナルベシ、當年正月廿六日丁卯、神祇官、陰陽寮等、

奏言ハ、凡事ナラス、數度ノ地震、齋宮寮ノ火災ニモ、驚思食ケ

ル人庶、阻飢、盜賊群起セシ上ニ、去年ノ灾旱ヲ受タル、京師ノ

飢人ニ、恩賜ヲ施シ玉ヒ、豊後國ノ山上、三池ノ変異ノ奏言、又

海賊奸盜ノ、一ニ、五畿七道ニ下知シ玉ヒ、又太政官近邊ニ、失火

有シ上ニ穀價騰躍人々苦シミケレバ東西京ニ常平所ヲ置テ

御仁惠ヲ施シ玉ヒ霖雨浩水ニモ 宸襟安カラズ端午ノ節

會サテ停モヒケム其後モ天変地殃有ケレバ此後イカバ有ムト思

食諸國ノ神社及本エノ水無神社ヲ始十四社神ニモ 本史ヲ見

普ク階ヲ玉ヒケルナルベシ 文徳天皇實錄仁壽元年ノ後正六位ニ

ト有テ神ノ名ハ記サレズ此山口ノ槻本神ハ大山祇神ニマ坐ラム

古史傳 五卷ノ云山津見神ハ山ヲ掌給フヲ木ハ山ニ生ル物ナル故ニ

山開ニハ此神ヲ祭ルノ古道ナル其ハマツ大殿祭詞ニ皇御孫命乃

御殿乎今奥山乃大峽小峽爾立留木乎齋部乃齋斧乎以伐採豆

本末乎波山神爾祭豆中間乎持出来豆 祝詞考云コノ中間ヲ

本末ヲ神ニ祭ルハ今モ遠江國人ハ大木ヲ伐テハソノ梢ヲ折テ切タル本株ノ中ラニサミ立
ルニ古ハモ然スルヲ本末又山神ニ祭ルトハ云ナラム他國ニテモシカ為ルカ問フニトアリ
本土ニテモ然為リ江戸ハ伐テ送リシ材木ヲ始メ國用ノ材ヲ
伐ニモ皆シカセリ心ナキ人ハ可惜トコソ思フヲラメトアリ又山口ニ鎮リ坐ス

山神タチヲ祭ル詞ニ 祝詞考云 山口ニ坐皇神等 古史傳注ニ此者山神ニ坐

能前爾白久飛鳥 高市ノ市 忍坂 長谷 畝火 高市ノ市 耳無 市

郡 登御名者白豆 考云其社ノ在所ヲ御名ト云ナセルニ凡ソ山口ニ

ニ祭ラレサテ畝火耳無ハ孤立シ山ニテ今ニテハ宮材ト成ベキ木ハアラネドイト上代

此六山ニテ採初ラレシ故有テ諸國ニテ採セラルニモ先コノ山口ノ社ヲ祭リ玉フ

ツラム 遠山近山爾生立留 考云遠山ハ諸國ノ山々万葉ニ藤原宮造

參ルコト云リ近山ハ此六山 大木小木乎本末打切豆持參來氏 礼彦云大

末ヲ打切テソノ中間ヲ 皇御孫命能瑞能御舍仕奉豆天御

持マ申來テナリ 傳ニ云天ハ雨ノ借字ニテ雨ヲ覆ヒ日ヲ覆カ為

蔭日御蔭登隱坐豆 屋ナルヲ文ニカクイヒナセリ

安國登平久知食須賀故皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭
竟奉久登宣トアルヲ以テ知ベシサテ此祝詞ニ見エ玉ヘル山口

社ニハ式ニ大和國高市郡飛鳥山口坐神社同郡畝火山口坐神

社十市郡石寸山口神社耳成山口神社城上郡長谷山口坐神

社忍坂山口坐神ノ社何レモ大月次新嘗トアル即是也云此外山

口神社ト申ス多ク有延喜式ヲ見テ知ルベシサテ此山口神社ハ今ノ大八賀郷

レハ村内ノ小字ヲ採テ槻本神社ト稱シナラム此境内往古ハイト廣カリ

ケムヲ數百年ヲ経ルニ隨ヒ愚民等古史ノ趣ヲモ知ラス神威ヲモ恐

レズ境内ヲ墾獲ノテ田畝ヲ拓キテ已ガ所持トセシニヤ今ニ其近邊

田畝ノ字ヲ月元ト云トゾサテ元祿ノ檢地帳ニハ僅ニ畝六步殘レリト見エ

其ヲ田中大秀音師 狂野翁慷慨テ縣令大井永昌通稱ニ建白ケルニ縣令大

秀ト相議リテ天保此社華表傍ニ石碑ヲ建ラレタリ

礼彦按ニ延喜式ノ祈年祭大殿祭ノ祝詞ニアル皇御孫命ノ御殿ヲ

造ラセ玉フ宮材ヲ大鷹山ヨリ伐出セシトハ聞ツタヘネド其ニ准テ

上古ノ國造ハタ國守タ子モ本テ國府本母相生 七日町ニ廳マタ官舎等ヲ

造ラレシ度ゴトニ此神社ヲ齋祭り大鷹山ヨリ良材ヲ伐出セシ

トモ有ツラム山ノ尾通リ大洞村ノ材木ヲ引出シソレヨリ今ノ大八賀川ヲ川下ケスバ

ト押ハカリテ記スト槻本ノ社ハ槻大木アリシ故ニ名ニ員タルナルベシ

産土神諏訪神社

祭神 建御名方富神 上諏訪 八坂刀目命神 后神下諏訪 祭日 氏子

境内三畝十步

諏訪神ノ夏ハ、大八賀郷漆垣内村ニ出セリ、觀請来由年代不詳、

定光寺跡

古八賀郷八箇寺ノ一也其跡槻本社ノ奥ニ在今モ村民ニ定光寺長兵衛ト云者在ト云真言宗ニテ下保村千光寺ノ末寺トハ是モ永祿七年焼亡カ

大鷹山

木 松 姫子 樅 栗 榎 ○草 薄 蓬 葛 蕨

鳥 鷹 鳩 雉子 山雞 鶉 木兔

獸 狐 貉 狸 兔 貂 栗鼠

堅香子ハ、荏野冊子位山卷云、万葉集十九天平勝宝二年三月二日、

攀折堅香子草花歌一首、物部能八十乃媼孀等之挹亂寺

井之於乃堅香子之花、大伴宿祢家持御、越中守タリシ

時、ヨマレシ歌ニ、カタカコ、又井ノシリト云春花咲草ニ、其花色ハ

紫ニ、此草處ニ多カリ、小八賀山口村槻本神社春雪ノ消ルヲモ、待アズ

生出テ、俗ニ雪割草トイフ花ハ濃紫ニテ、姫百合ノ花ノ如ク六辨ナルガ、反テ

下ニ向テ咲、根ハ百合ノハナルカ如ク、アツキ美ニシテ食フベク、又碎テ水ニ

漬テ、粉ニ製ベシ、俗ニカタコカタコユリカタクリナド云、万葉略解十九上

ル如ク叢生ル草也、粉ニシテ、菓子ニモ麵ニモ製シテ、味佳品也、

米七百二十八石ヨ
 二五十六石五升
 大ムキ三十二石ヨ
 小ムキ十二石三斗ヨ
 大豆十九石八斗ヨ
 小豆四石二斗三升
 アハ六石二斗三升
 ソハ四石四升
 蔴一石七斗四升
 楮サ四ノ目
 大マニ五十七ノ八百目
 小マニ百八十六ノ目ヨ
 布三十九反

町方村 マキカク

高八百三十八石九斗二升

縦十二町
横十町

山林段別木數不詳 松 姫 栗 楢 樫 柞 雜木 杉

家百七戸

人四百六十餘人

産物

大マニ五十八ノ目
大繭

薪

カニシノ目
楮

アサヲ
麻苧

カネヲ
蕪菁

東方 坊方村へ八丁

西方 松ノ木村へ一里

高山一里半

南方 山口村へ十丁

北方 新張村へ十二丁

村名義ハ町縣ナルベシ

奈太郷花里村、又〇和訓栞云、町ヲヨメルハ、間路成

ハシ、或ハ區ヲヨメリ、日本紀ニ、十段ヲ為町ト云、今邑里城市、通シテ

六十步ヲ町ト云、○古事記傳廿九卷五十九丁云、縣ヲ阿賀多ト云ハ、上リ田ニ

テ、元ハ畠ノト云、水ノツカヌヲ、畠トモ上田ト云、水田ヨリハ、高ク上リタ

ル由ニ、神代卷高田万葉ニ上ル種時トアリ云、上卷八千矛、

神ノ御歌ニ夜麻賀多ル、麻岐斯阿多泥都岐云、下卷高津ノ

宮段、大御歌ニ夜麻賀多ル、麻祁流阿素那母云、トアル、夜麻賀多

ハ山阿賀多ノ謂ナルニ、求レ苗、時ル青菜トアルヲ以テ、山ナル畠

ナルトヲ知ベシ、地名、河内ニ大縣、美濃ニ方縣、山縣、信濃ニ小縣、但馬ニ二方、安藝ニ

リ、祈年祭ノ祝詞ニ御縣坐皇神等前ル白、高市葛木十市志貴山

邊曾布登御名者白豆、此六御縣ル生出、甘菜辛菜手持參来

豆、皇御孫命能長御膳能遠御膳登聞食故、皇御孫命能宇豆乃

幣帛乎、稱辭竟奉久登宣、月次祭ノ祝詞コレニ、甘菜辛菜云、ト

アルヲ思フベシ、○神名式ニ、大和國、漆下郡、漆御縣坐神社、

葛下郡、葛木ノ御縣坐神社、城上郡、志貴御縣坐神社、高市

郡、高市ノ御縣坐神社、十市郡、十市御縣坐神社、山邊郡、山邊御

縣坐神社、新嘗○古事記傳廿九卷六十丁ウ云、此六御縣ハ、殊ニ

近ク京畿ニ在テ、朝廷ノ御料ス、陸田物ヲ作テ、貢進ル地ナルガ故ニ、

其神ヲ重ク祭り玉ヒテ、カク祈年ノ祝詞モアルニ、カレバ、縣ト云ハ、

モト御上田ヨリ、起レル名ニテ、又其ニ准ヘテ、諸國ニアル、朝廷ノ御料

ノ地ヲモ云、

按ニ、後世ニ成テハ、人心イトク巧點シク成テ、此町縣又ハ隣村高地アレハ、坊縣ノゴトク

遙カナル奥ヨリ、川水ヲ堰エテ、用水路ヲ堀通シ、水ヲ引来テ、ソノ
高地ヲ、平坦ニ押平均シテ、水田トシ、稻ヲ十分ニ作りテ、古人ハイト
拙劣トコソ思ハ、上古ノ人心ハ、イト穩ニテ、サルヲハナクテ、川添ノ小田ニ
ノミ、稻ヲ佃リ、水利ナキ高地ハ、陸田ニシテ、陸田種ヲ作りケム、此町縣
隣村ノ坊縣ハ、郷中ニテ、真府ハイフべく四方ノ山ハ、昇ク遠クシテ、
水田陸田モ、数多アレバ、甘菜辛菜 大根蕪菁百合人參
干菜根葱淺葱等ヲ作りテ、當昔ノ
國造等後ニ、國守等ノ御館 本母相生ヘモ、
七十町等 献リケム、カ、リシ故ニ、町
縣坊縣ノ、名ニ負ケムカシ、其後鎌倉室町等ノ頃ヨリ、諸國戰
鬪ウキツバキニ代トナリテ、本土ハ、國司 姉小
路家 下向マシテモ、威勢
微弱テ、郡中處ニ、土豪ノ、權勢アルモノ、交出來テ、村里ヲ押領テ、

産土神尾崎明神

祭神八重事代主神 欽
境内二町四段歩

祭日

氏子

國府 本母トハ、
其他 懸隔タリケム、然シテ此村、尾崎ノ城主、塩屋筑前守ハ又ハ
千光寺等ノ、下風ニナヒキタリケムトソ思ハル、又此村ニ、千藏寺、
無量寺、六仙寺 何レモ
真言宗 還來寺 門徒宗天文
五甲年開基 等ノ寺院アレバ、其頃ノ
村里ノ賑ハ、想像ベシ、

古事記 上卷 云、大國主神云々、亦僕子等百八十神者、即八重事代主神、
為神之御尾前而仕奉者、違神者非也、傳 十四卷
四十七 云、神之御尾前
神ハ天神ノ御子ニ、帰順奉仕ル、諸神ヲヒロク指テ云也、尾前ハ
前後 俗ニ跡前ト
イフモ同ジ 云ムカ如シ、後、世ノ軍陣ナドニモ、先鋒殿後ヲハ、



産土神白山神社
祭神
境内一段三畝十歩
花里村一本杉ト、祭神同シキニヤ、

祭日 氏子

重キ任トスルガ如ク此事代主神、渠帥トシテ、諸神ノ前ニ夕々ハ
後ニ立テ、天神ノ御子ヲ守護奉仕ラムトシ、云々此神後、世マテ神
祇官ノ八神ノ列ニモ入テ、祭ラレ奉リ玉フモ、全天皇ノ大身ヲ守護
奉リ玉フ由縁ニ、トアリ、勸請来由年代等ハ、詳ナラネド、此神ヲ
祭リシニヤアラム、猶委シキコトハ古事記傳、飛州志云、祭神或曰御崎ナ
ルカ、撰者假字ノ違ヘルヲモシラヌハ可笑鎮坐記曰、猿田彦命、古事記上卷ニ、任奉御前而参向之侍トアルヲ見テ、ミサキヲオサキト訓クハ、
假字ノタカヘルラモ、古言ノ訓ヲモ知ラヌ幸強也、

還來教寺 東本願寺宗 高山照蓮寺末
天文五十四年開基

本尊阿彌陀如來
境内屋敷五畝十五步

千藏寺跡 町方村巽方、坊方村境ニアリ、飛州志云、今ハ千藏寺、森ト稱テ、熊野三社祠アリ、

八賀郷、八箇寺ノ一ニシテ、真言宗、下坊村千光寺末ト云、開基年代未詳、

廢絶 永祿七甲子年七月甲州軍將山縣昌景
モ詳ナラス、天正年中、金森候本
カガニ放火サレシカ

土平治ノ頃ハ、廢絶ノ後ナルベシ、除地モナレバ
ナリ 元祿年中ノ檢地ニモ、寺跡

除地ハ無カリシニ、坊方村ニハ、熊野社ノ除地ハ
アレド、宮祠ハナシ、 寶永正徳ノ頃ナルベシ、町方坊方

境論シテ、西村ヨリ訴出、檢使ノ出迎スル寸隙ヲ考ヘ、坊方村ノ熊野社

ノ神号ノ額面ヲ、此千藏寺森ニ懸置ケルヲ、檢使見届ケ、坊方村ノ

氏神ノ社地ニ成シトツ言傳フ、町方村ノ地内ニテ坊方村ノ氏神ヲ祭レルハ
地カリノ神社ト云ビシ

無量寺跡

前同、千光寺末ト云、村ノ中央還來寺ノ後、田間小路ノ東ニ在、開基

并相續廢絶等、千藏寺 詳ナラス、
同時カ

六仙寺跡

前同、尾前、古城ノ東麓ニアリト云、

尾崎古城 飛驒國城址ニ
記セシハ、爰ニ略

城主鹽屋筑前守秋貞、永祿年中築テ居城トセリトツ

上野 豆イ、加坂 名義不詳
伊波奈之 蓮花躑躅等アリ 御殿林 名義不詳
永祿七年武田勢ノ屯セシ処ト云

小八賀川 東方坊方村ヨリ西流西北方新張村ニ至

魚 石魚 鱸 鮠

米六百五十石
 五百二十石
 大八千六百石二斗
 八千三百三十石
 大豆三十二石
 小豆四石三升
 アハ一石五斗
 ソバ一石
 キビ一斗一分
 荏二石
 大角豆九升
 白羊四石一斗
 大根千二百五十目
 カアラナ千二百目
 菜八千五百五十目
 アサラ十六目
 猪十五目
 杏八升
 麥李五升

村名義ハ、和名抄云坊和名別屋也、又村坊也云、野外、聚居也、ナトアリ足ハ
 元町縣ノ内ナリシヲ、大村故、田畝ヲモ、村居ヲモ別テ、坊縣マカガ縣ハ町縣ノ條下ニ
 云ルト同ジカルベシ

家八十四戸
 人四百六十餘人
 産物 大大五六十目 新 楮 麻苧 蕪菁
 小小五三十目 繭 新 楮 麻苧 蕪菁
 東方 大谷村ハ十三丁 西方 町方村ハ八丁
 南方山 北方川北 小本曾村ハ八丁 殿垣内村ハ十丁
 高山二里

山林段別木數不詳 松 姫子 栗 檜 樺 雑木 杉
 高六百九十六石五斗七升二合 縦十八町 横四町

坊方村 技村 日影下田



束末三升
柳一万五百顆
大ニ六テテ百目
小ニ二百五十目
稻延八十束
布四十二匹

ト書タリシヲ後ニ千光寺

ニ成シニヤアラム、坊ト僧房ノ房トハ異ナル
トヲモ辨ハサルニヤアラム

葉中編云、古、郷村ノ外ニ莊トイヒ坊又保ト称スルアリ、拾芥抄ニ坊ニ坊、保音保ト云、如シヨリ坊方ト云ニヤ
ノ為ニ押領サレテ、坊音方、訓讀ノ借字ト湯桶訓

産土神八面流神社

本社六尺
本寺

拜殿四間
三間五尺

木鳥居一基

祭神 奥津日子神等合八座

祭日八月六日

氏子 中組
二十六戸

境内二段六畝二十步

是ハ俗ニ八竈社ト云トナリ、祭神ノ事ハ次ノ大谷村ノ八竈社ノ條

下ニ、壬午シク記スベシ、

産土神熊野三社

本社六尺六寸
五尺六寸

拜殿三間
二間半

繪馬殿三間
三間三尺

石鳥居一基

祭神 熊野坐神 本宮
熊野速玉神 新宮
事解男神 那智

祭日八月五日

氏子 下組
十七戸

境内三十四間

無除地

祭神 須賀御魂神
大市比賣命

伊藤右門

産土神津島社

本社三尺
五寸

祭神 須佐之男命

祭日八月八日

氏子 上組
十戸

境内十六間

無除地

無除地
氏子不知

石神社

祭神 大穴并邊神
少名異古那神

境内八間

神明宮三社

祭神 天照大御神

境内六間
同十七間
同十六間
同八間

諏訪社

祭神 建御名方命
八坂乃賣命

境内十六間

末社
八坂之入日賣命社
景行帝后
成務帝后

美女島社

祭神 市杵島姫命

境内
合二社 坊方村

産土神熊野神社

本社六尺
五寸

拜殿三間
二尺

木鳥居一基

祭神 須佐之男命

祭日八月七日

氏子 上組
十六戸

境内二段廿四步

古事記上卷云、速須佐之男命、宮可造作之地、求出雲、國爾到坐須

賀地而詔之、吾来此地、我御心須賀須賀斯而其地作宮坐

傳九卷云、出雲風土記ニ大原郡須我山云、須我、小川源出須我山ト

見エテ、又意宇郡野代川源出云、須我山、須我山ハ大原意宇二郡同

郡熊野山、郡家、正面二十八里、所謂熊野大神之社坐ト見エカレハ

須我山熊野山ハ相並ブル處ナレハ、熊野神宮、即須賀宮處ナルベ

キ、故久麻野ハ隱野ノ義ニシテ、御歌詞、都麻碁微ノ由ナルベシ、

サテ此神宮ハ、式ニ意宇、郡熊野坐神社、名神トアル是也、文徳実録
三仁青元

年九月、三代実録貞觀元年正月等、
神階昇進ノ下委シク見エタリ

此社ノ須佐之男命ニ坐ス、
ハ國ノ造カ神

賀詞ニ出雲國乃、青垣山内尔、
下津石根尔、宮桂太敷立氏、高天ノ

原尔千木高知坐須、伊射那伎乃日真名子、
加夫呂伎熊野大神

櫛御氣野命、風土記ニモ、伊弉奈枳乃麻奈子坐熊野加武呂乃

命トアリ、伊邪那岐命ノ御子ハ多カル中ニモ天照大御神月讀命

須佐之男命ハコトニ御愛子ナレバ、
日ハ日子日女ノ日ニ
同ジ、加夫呂伎トハ大名持命ノ御祖ナル故ニ、
出雲國ニテハ殊ニ如此申セル、
櫛御氣野命ハ云々、須佐之男命ノ、熊野宮ニ鎮坐、
御靈ヲ殊ニ稱申セル御名ナルベシ、

云々、紀伊國ニ渡リ坐シ由ハ記傳
十卷二十八丁大屋ヲ見ベシ、
奈太郷西一色
熊野社ノ條下

合見、又神代紀一書ニ、
上卷三十五丁史傳
素戔嗚尊、杉檜被樟ヲ生シ人噉フ

キハツ木種モ皆播生シ玉ヒ御神ニ坐ハ此村ニ齋祭リシ成ヘシ

産土神貴布祢神社

本社三尺

祭日八月八日

本鳥居一基

氏子 上組 四戸

祭神高麗神
境内三畝十八步

神名式、山城國愛宕郡貴布祢神社名神、大月ヲ祭レルナルベシ

三才圖會云、貴布祢神社、在愛宕郡鞍馬山、
乾祭神高麗神伊弉

斬ヲ軻遇突智、為三段、其一段是也、
水神而禱祈之則有應驗也、
○神代紀一書ニハ閻竈一書ニハ高麗トアリ、

○古事記上卷ニハ、閻添加美神トアリ、傳ニ久良ハ谷ノコト也、
高ハ山上

ナル龍神ニテ、雨ヲ物スル神之云々、
○大日本史、卷二十三、嵯峨

天皇本紀二十丁云、弘仁九年戊戌、夏四月十三日丙寅、遣使祈

雨于京畿諸神、二十二日乙亥奉幣大神宮、使諸大寺及畿内諸寺、

轉經礼佛以祈雨、
カクマテ雨ヲ祈リ
二十三日丙子以炎旱、
避正殿下

詔減服御常膳、後宮用度、及左右馬寮、
秣穀一切省減之、奉

幣諸社、祈雨、又詔、僧綱轉經、
天皇及公卿百官、素食三日、
マカク

宸襟ヲ、ナヤママモ玉ヘレド、
雨ハ更ニフヲガリケレバ、
二十六日己卯、遣使、柏原山陵祈雨、
神武天皇御陵
マテ祈雨玉ヒモ
猶駭ナカリ

秋七月七日己丑、以旱、停節、
イナリケリ、十四日丙申、遣使、
貴布祢、山城國及室生山龍、
穴、清和天皇、紀貞觀九年八月大和國從五位
下、櫻生龍、穴、神、正五位下、古史傳五卷ノ

二十丁ニ見エタリ、此時、
冬十月九日己未、以祈雨有應、
賽、貴、
布祢社、是ハ全此神ノ靈驗ユエニ、此賽奠アリテ、此後、旱又ハ霖雨アル度、恒例ト
ニモ、此社ト、大和國吉野郡ナル、丹生川上雨師神社トテ、歷朝祭リ玉ヒシ、
歴

史ニ見、十年己亥、夏五月十七日甲午、行幸神泉苑、
祈雨、貴布
祢、去年弘仁九年ノ例ニ依テセ、
六月九日乙卯、奉白馬於丹生川
又靈驗アリテ霖雨ナリシニヤ

上、大和國貴布祢祈晴、
祈晴ニハ白馬ヲ
奉ラル、例ナリ、
秋七月二日戊寅、奉黑
馬於丹生川上、祈雨、
祈雨ニハ黑馬ヲ
奉ラル、例ナリ、
二十八日癸酉、祈晴、
貴布祢、

二十九日甲戌、飛驒國分寺災、
是ハ因ニ乙亥晦、
祈晴、
丹生川

上、此後歷朝ニ祈雨祈晴ノ有シ、
ナド有テ朝廷ニテハ祈雨祈晴ニハ必ス
歴史ヲ見テ知ルベシ

山城、貴布祢ト、大和國、丹生川上、
雨師神ヲ、祭リ玉フ例也、
其ニナラシ
テ河内、國、石川、郡ニ、
太祁於賀美、
神社、
茨田郡ニ、
意賀美、
神社、
和泉、
國、和泉、
郡ニ、
意賀美、
神社、
日根、
郡ニ、
意賀美、
神

社アリ、
其外諸國ニ祭タルハ、
神名式、
古史傳五卷ノ
ヲ見テ知シ
新古今集卷十九、
神祇歌ニ、
社司トモ貴布祢ニ參リテ、
雨ゴヒシ侍ケ
ル序ニヨノル、
賀茂、
幸平

大御田ノウケルホフ、
バカリセキカケテ、
中セキニオトセ川上ノ神

新葉集卷十六、
雜歌上ニ、
芳野ノ行宮ニテ、
五月雨晴間ナカリ

ケル頃、
雨師社ハ、
止雨ノ奉幣使ナド、
立ラレケル頃、
思ヒツバケ

ケル頃、
雨師社ハ、
止雨ノ奉幣使ナド、
立ラレケル頃、
思ヒツバケ

ケル頃、
雨師社ハ、
止雨ノ奉幣使ナド、
立ラレケル頃、
思ヒツバケ

ケル頃、
雨師社ハ、
止雨ノ奉幣使ナド、
立ラレケル頃、
思ヒツバケ

ケル頃、
雨師社ハ、
止雨ノ奉幣使ナド、
立ラレケル頃、
思ヒツバケ

サヒタマヒケル 後醍醐天皇御製

此サトハ丹生ノ川エホト子カシイノラバ晴ヨ五月雨ノソラト

遊バヤレケリ 此坊縣ナルハ賀川モ古シハ此坊縣町縣ノ名義ノ水利ナキ地ハ

皆高田ニテ 陸田ナリ 日雨ナケレハ作レル諸穀モ枯果ヌレバ別テ

賣布祢社ノ高麗龍神ヲ齋祭リテ作毛ノ豊饒ヲ祈リシナルベ

シ 奈本ノ郷冬頭村、荒城ノ郡古川ノ郷是重村、ソノ餘、賣布祢社ヲ祭レル村ハ皆同ジカレベシ

立神社

紀伊國海部郡仁嗜莊四村 笠畑村 奥村 百垣内村 引尾村 産土神引尾村鎮座 祭神賣布祢明神

紀伊ノ國ノ名所図會後編二卷 丁上云、此神社傍ニ高六丈餘、横八間、厚一丈許ト、又少カリタル、兩奇岩、山魁トシ屹峙如將、仆形勢ニ故

謂立神矣、例祭ノ外旱天ニハ、古来四村民相議而、来集于社前、

為雩祭踊云、具式則神主着烏帽子 書雨水 狩衣、而持團

扇 書雨水 小竹、唱祭文了、立神前、大杉ノ樹下、四村ノ少年

輩、各着假花 ツクリハナ 菅笠、披扇面、水數十人、徘徊杉下、

舞踊、又有三四人、覆雷神ノ面、持竹、サ着電光、紋衣、聲固

之抑雲集来、觀也、鐘鼓為節、其舞踏、不終日而必、有沛

然急雨降来云、其謠曲曰、千窟降来留雨脚、イヤ御代亦

治留貢物、二日賴驗、六月之、イヤ空母一二天下、三日杉樹

陰而月見者、イヤ少時曇天雨之降、四日靡久稻葉茂、色增天民

表惠之神垣也、五日水源之奥之堰表、汲而曾流、須賣船河、イヤ

四方ヨモエニウレホフアノガフル亦潤布雨之降、餘略之、

礼彦按、立神タツカミ是龍神之義乎、社傍ハツカミニ西大岩屹立ハ地勢ノミ、祭神ニカ、ル名トハキコエカシ

淨願教寺 東本願寺宗 高山照蓮寺末
天文八己亥年開基

本尊阿弥陀如来

境内屋敷除地二畝八歩

元禄七甲戌年檢地名受道場仁兵衛
其後今ノ寺号ヲ唱フル年月詳ナラス

長顯寺跡 坊方村坤方山腰石神野ニアリ

八賀郷八箇寺ノ一ニテ、真言宗下保村千光寺末ト云、開基年代不詳、

廢絶、年月モ、永禄七甲子年七月甲州ノ軍將山縣昌景
千光寺ヲ討ヒセシ頃是ヲモ放火セシカ 詳ナラス、今モ猶

其跡ニ、小堂残りテ、觀世音馬頭ニヤ遺像アリテ、小兒ノ病症、又ハ牛

馬ノ病アルルハ、諸人祈願スレハ必ズ應驗シルシアリトゾ

用水路

村ノ東字若林ニテ小八賀川ヲ堰上テ坊方町方兩村ノ
田ニ引テ古シハノ陸田高田ヲモ中昔ヨリ水田ニ作レリ

同

隣村大谷村ニテ小八賀川ヲ堰上テ用水路長凡 引來テ前西村ノ田ニ引テ
古シハノ高田ヲ今ハ尽ク水田トセリ

小八賀川 東方大谷村ヨリ流レ 此村ノ乾方ヲ經テ町縣ニ至ル

魚 石魚イハナ 鱒チカア 鮭サケ

今橋

坊縣ヨリ小木曾村ヘカケ渡シタリ郷中及荒城高原等ノ村里通行ノ橋ニ
橋長 幅 三桁



大谷村

高八十七石二斗六升

縦五町廿間 焼畑一町一段三畝十九歩
横三十五間

山林段別木數不詳

木町方坊方ニ同

家二十戸

人百四十餘人

産物 小大繭 新楮 麻苧 蕪菁

東方 小野村へ廿二丁

西方 坊方村へ半里

高山二里半

南方 山

北方 川北法力村へ

米百五十石
五斗二十石
大斗三十石
小斗三十石
大豆一石八斗
小豆一石二斗
アハ一石二斗
ソバ八斗
キハ五斗
苧一石五斗
菜タネ一斗
粟八斗
麻三十目
楮十目
烟草十斤
柿三斗 栗三斗
大斗四十目
小斗四十目
布三十反
カアラ十目

村ノ名義ハ、極ヶ谷 坊方トイヒ、西河、極詰谷ナト云谷アリテ、別テ洞谷ト云ハ、最奥深く、溪ノ流水モ多ケレバ、大谷ト云村、名ニ、負タルナルベシ、

産土神 日輪宮

祭日 八月三日 氏子 一村二十戸

祭神 天照大御神
境内 二町二段一畝二十步 除地

土人ノ口碑ニモ、天照皇大御神ヲ、拜祭レリト云傳フ、中昔ノ浮屠

氏等、カ、ル名ヲツケタルナルベシ、神道大意初巻
十九葉ニモ出タリ

産土神 天神宮

祭日 氏子

祭神 菅原贈太政大臣御靈
境内 一段三畝十步

城ケ尾ノ、古城跡山ノ麓ニアリ、城主木村大隅守ノ、鎮守ナリト云傳

フ、

産土神 八面荒神社

祭神 奥津日子神 等合八座 祭日 十月廿八日 氏子 一村二十戸 男子十五歳内

境内 三段步

古事記上卷云、大年神ノ、娶天知迦流美豆比賣生子、奥津日子

神、奥津比賣命、亦名大戸比賣神、此者諸人以拜竈神者也、トアル

ヲ古史傳十六段云、大年神之子御年神、亦子奥津日子神

次奥津比賣命、亦名大戸比賣神、此二柱神、謂庭津日神、亦云庭

神、此者諸人之持伊都久竈神也、

註ニ大年ノ神、師本居宣長翁云、名義大ハ稱名、年ハ田寄也、多余切テ

然云故ハ、マツ登志トハ穀ノ一也、ツハ神ノ御靈以テ、田ニ成シテ、

天皇ニ寄奉玉フ故ニ云リ、田ヨリ寄スト云意ニテ穀ヲ登志トハ云ナリ云々、サテ穀ヲ一ト度
取收ルヲ、一年トハ云々、サレハ登志ト云名ハ、穀ヲ斯テ此神ハ穀ノ一ニ、本ニテ、年月ノ登志ハ末ニ、

大ナル功坐シ故ニ、此御名ヲ負玉ヘル之、○奥津日子神之、師、

説ニ、奥津ハ地名カ古今集ニ、貫之カ和泉國ニ侍ケル時ニ、倭ヨリ

越マウテ来テ、ヨミテ遣シケル、藤原忠房、君ヲ思ヒ沖津ノ

濱ニ鳴鶴ノ云々、是カ、又駿河國ニモ同名アリ今ハ興津トカケリ然レド、

此神等ノ御名ニ、地名ヲ負玉ハムト、似ツカハシカラネバ、奥津

ハ置エノ省、語ニテ、竈ノ一ニヤ、竈ハエヲ置テ作レバニ、地名ハ却テ此神等御名

ヨリ出ケム云々又ハツヒト云ニ就テ思ハ、奥津火辺津火ト對ヘル言カ又火

ヲ利ヒ云リ古今集ニオキノサテ身ヲ燒ヨリモ悲シキハ云トアリ考合スベシ

○大戸比賣神師云戸ハ幣音濁訓ベシ幣ハ竈ノ事ナリ

○竈神ハ、師云、竈ハ加麻ト訓ベシ、和名抄之々又加麻度トモ云ハ

竈處之、万葉土ニ、可麻度ニハ、火氣布伎多天受ト咏リ、神名式

筑前國御笠郡ニ、竈門神社名神アリ、云々諸民ニ炊爨事ヲ

教ヘ玉ヒシ、功アル神ナルベシトアリ、聖武天皇紀ニ、天平三年

正月庚戌朔乙亥、神祇官奏庭火御竈四時ノ祭祀、永為常

例、大膳職式ニ、御膳神八座云々、竈神四座云々、竈神四座

云々、文德天皇紀、齊衡二年十二月丙子朔、大炊寮、大八

島、竈神、齋大武主比命、庭火、皇神、並授後五位下、大炊

寮、式ニ、竈神八座云々、清和天皇紀、貞觀元年正月廿七

日、大炊寮從五位下大八島竈神八前、内膳司、從五位下

齋火武主比命神、庭火、皇神等、並授後土位上大八島トイハル

ト見エタリ、師云、竈神ハ、如此公家ニモ祭玉ヒ、又古ヨリ、諸民

迄モ、各祭リシテ、諸人之持伊都久、ト有ニテモシレルベク、江

家次第ニ、正月元旦、四方拜、條、庶人、儀ニ、竈神ヲモ拜ム

コト見エ、サテ今世ニハ、三宝荒神ナド云、穢キ名ヲ申スハ、

イト淺マシヤ事ナルカモ、以上古事記傳 ○玉禰ハ卷云、辭別氏

竈處、尔齋伎奉留、火産靈神、奥津比古、奥津比賣、神乃

御前乎慎美敬比云、註ニ、火、神ハ、伊邪那美、神ノ御語ニ

モ、心惡子ト詔ヘル如ク、御心アラク坐マシ、火ニ穢アル時ハ、

荒ビ玉ヲ神ニマス故カ、古クモ荒神ト申セリト聞エテ、

木ノ國ノ玉置山ニ、荒神祭ノ神社ト申スアリテ、此ハ火ノ神ヲ祭

レル社ト、天野ノ信景ガ塩尻ニ見エタリ、然レハ俗ニ、竈所

ノ神ヲ、三寶荒神ト稱シテ、頭ノニアリテ、髪ノ逆サマニ

生タル物ヲ祭ルコトハ、火ノ神ヲ荒神ト申スニツキテ、面部習

合ノ説ヲ始メシ以来、天竺ニ謂ユル、障礙神ノ一名ヲ、荒

神ト稱シテ、此ハ何事ニモ、障礙ヲナス物トテ、諸ノ修法ノ

始メニ、先此神ヲ祭リ和ムルコト有、コハ密家ノ秘法ニテ、具祭

斯テ其ヲ文字ノ同キマ、ニ、竈所ニ祭ル神々ニ、附會シ

テ混一セル物也、猶本書ニ委ケレハトアリ、礼彦按ニ土人問ケル

ニ此八面荒神ノ社ヲ、一名ハチソウノ社トイヘド、文字ハ不知ト

大谷城墟ハ北方大谷村ヨリ登坂路ヲ曲リノ跡存セリ三ノ丸跡七間畝宇西ヶ洞ニ油ノ水ト云テ涌出流ル水ノ手アリ又テ九アト五六間四面本丸八十五間四面アリ西方三ノ丸ヨリ三ノ丸迄空堀跡三筋存其辺ニテ矢ノ根ホリ出テアリ去シ文政中坊方村長助ト云ル者短刀ヲホリ出ル帰家後瘧ヲ煩シト共アリシト也

云リ、前ニ引ル大炊寮式ノ、竈神八座ト、清和天皇御紀

ナル、竈神八前ノ事ニテ、八竈社ト唱来レルヲ、中古八賀郷

八箇寺ノ真言僧等、彼天竺ノ障礙神ニ附會シテ、八面

荒神ニト、愚民ヲ欺ケルナラムカ加賀茂真淵翁曾祖父、四部三郎兵衛政次ハ、遠江國敷智郷濱松庄、四部郷

ニテ、其兄岡部二郎左衛門政員ハ、氏神賀茂新宮ヲ守護、弟政次ハ、神明宮ト八面荒神、而社ノ神主タリシ由、玉禱九卷十二丁ニ見ユ、然レハ真淵翁ノ著書ノ内ニモ、出タルベケレド、未見當

ラネ、後ニ熟考ヘテ記スベシ、但其ハトモアレ、御父ハ大年ノ神ト稱テ、

穀ニ大ナル功坐シ、其御子ハ、即諸人ノ持伊都久、竈神ニテ、炊爨大

事ヲ教玉トシ功マセバ、朝廷ニテモ、嚴重ニ祭玉ヘル事ナレバ、其ニ習

奉テ、命ヲ繫ガムト思フ村民等ハ、尊ニ敬ヒテ、朝夕ニ伊都幾祭ル

ベキトニコソ、又火産靈神ヲ祭添タルハ、炊爨事ナレバ也、

森大隅守古城跡

大谷村、字城ヶ尾山上ニ在

城主森大隅守、ハ、元濃州金山城主、森三左衛門尉源可成ノ庶弟

也、本エニ来リテ、永祿年間、大谷村城ヶ尾ニ、城ヲ築キ、近村ヲ押領シテ、

年月ヲ送リケルガ、籠城ノ戦、死セシカ詳ナラス子モナクテ病死セシニヤ、天正年中、三木自綱國中ニ成

ヲ振ヒ、江馬牛丸等ヲ、亡ホサントハカルニ依テ、江馬ヨリ森ノ本家、濃

州金山城へ、援兵ヲ請シ時、先ツ森可成ノ六男、千丸ニ勇臣數人ヲ添テ、

遣ケルヲ、江馬大ニ悦テ、大谷ノ城ニ居置、専ラ防禦ノ策ヲ、廻シケルト

也、然ルニ兄森可隆ハ、越前手筒山ニテ討死シ、次兄森武藏守長可ハ

長久手ニテ戦死、仲兄蘭丸長定、叔兄坊丸長隆、カ丸長氏ハ、京都本

能寺ニテ、討死ナリケレバ、千丸一ト先、實家へ帰リケルガ、其後江馬

輝盛ハ、荒城八日町ニテ、戦死シテヨリ、三木益強盛ニ成ニケリ、森千丸
再ヒ來テ、國中ノ諸士一同、モロトモ潜ニ越前、國ノ穴馬ヲ経テ、金森家ヲ頼ミ
テ、天正十三乙酉年、八月、金森家ノ軍勢、本土ハ討入、三木一族ヲ
亡ボシ、終ニ領主ト成ラレケルトゾ、千丸此頃ハ大隅守トハ、實家ニ帰リ
名乗ケルニヤ
テ、父兄ノ跡ヲ續テ、後ニ作州津山城主、森美作守忠政ト名ノリ
テ、十八萬石餘ノ大名ト成ラレケルトニ、大谷村ニ妾有リテ、別後一男
子ヲ生ケルガ、後成長テ、ヒト、ナリ森作藏ト名ノリテ、其末葉今モナホ、
大谷村ニテ百姓作藏ト云ト也、

舊家名主庄兵衛、家名
荒川金森家領國ノ頃、キモ
イリ肝煎名主
ヲ云タリシガ、徳川家
支配ニ成テ、元祿年中ヨリ名主タリ、明治元年御一新ニ成テモ、猶又

村長ヲ務ム、

小八賀川 東方小野村ヨリ 西方坊方村ニ至ル

魚 坊方町方ニ同ジ



小野村

焼畑四町九段三畝十八歩

高五十六石四斗七升三合

御年貢三分二金納一大豆納

山林段別本數不詳

家三十一戸

人百六十餘人

産物 小繭 楮 麻 苧 蕪菁 大豆 小豆 蕎麥 桐板

東方根方村へ土丁

西方大谷村へセニ丁

南方山

北方瓜田村へ

米二石二斗
 〇五三六石五斗
 大ムキ六石五斗
 小ムキ三石五斗
 大豆七石二斗
 小豆一石五斗
 アハ一石五斗
 ソハ一石四斗
 キビ一斗五升
 苧二石一斗
 菜種一斗
 粟二斗五升七斗目
 アサヲ五斗六目
 楮一斗五目
 烟草三斗五升
 大ムキ五斗目
 ハムユ六斗目
 布十五反
 カアラナ三斗目

村ノ名義、小野ハ、和名抄ニ山城ノ國愛宕郡、小野字ヲ始トシテ、諸國ニ數多アル地名シ、此村モ上古ハ、野ナリシヲ、隣村ノ大谷ニ對テ小野ト云カ

ナルベシ、此村マタ吉城郡小雁島狩郷ノ小野村等、スベテ字乃ト稱ベキラ、因幡國ナル

誤ニテ木野ナルベシム

高山三里ヨ

史傳十五ノ九ウ、伊
豆志、五十猛神ヲ祀
タル、本野大明神ト
ルニ同神ヲ犯タレハ、
村名ニ貞シナラム、

産土神日抱尊

郡名ノ如、巨濃名義ト云ハ、後世ノ音便ニ變タル成下シ性ニハ日本紀、姓氏録ニ、アマタアリ、神名帳、近江國滋賀郡小野神社ニ座アリ何モ判カト云リ

祭神伊太祁曾大神
境内一段歩

祭日 氏子

日抱尊ハ、牽強ニテ、伊太祁曾ナルベシ、當郷ノ惣説ニ、日本書紀神代

卷上云、素戔嗚尊、帥其子五十猛神、降到於新羅國云々、

初五十猛神、天降之時、多將樹種而下、然不殖韓地、盡以持歸、

始自筑紫、凡大八洲之内、莫不播殖而成青山焉、所以稱五十

猛神、為有功之神、即紀伊國所在大神是也、古史傳十、五初丁云、

五十猛神亦云伊太祁曾、纂疏ニ、樹種、可樹藝、草木之種子也、神、亦名大屋毘古神、

史傳ニ、諸穀物ノ種、諸菜ノ種、諸菓物ノ種、又桑麻ナド、其外多

カルベシ、皆樹藝ステハ、得有マシキ物也、紀伊國ハ本國ノ木種ヲ

分播玉ヲ神ノ坐ス故ニ、本國トハ名ケシ也、神名式ニ、紀伊國名草、

郡ニ伊太祁曾ノ神社、名神大月次、相嘗新嘗トアル大神是ニ、文德天皇紀ニ、嘉

祥三年十月、紀伊國伊太祁曾神、從五位下、ト見エ、清和天

皇紀ニ、貞觀元年正月、伊太祁曾神、從四位下、陽成天皇紀ニ、

元慶七年十二月、伊太祁曾神、從四位上ナドアリ、當國ノ神名帳ニ、正位勳八等、

伊太祁曾大神ト見ユ、抑此小八賀郷、小野村ヨリ、山奥ノ村里、何レモ委シキヲハ本書ニアリ、

山ハ高ク險ク、田畑ハ少ナケレバ、村民等、栗子、榎、實、材、林、檜、栲、

梨子、桃子、胡桃、ナドヲ拾ヒ、又嶮岨山、ノ地理ヲ見テ、肥腴タル山ニハ、

薙畑ヲ作り、穀物ヲ取收メ、其薙畑ノ跡山ニハ、桐苗、榛苗ヲ植テ、其

成木トナレハ、伐テ賣出シ、代替テ米ヲ求メテ、食ニスレハ、木種ヲ多ニ

播殖^{ホシキ}テ、人命ヲ扶助^{シタ}玉^メハル、有功^{イコウ}神ナル伊太^{イタク}曾大神^{ソノノ}ヲ、村ニ
 齋祭^{イソキマツ}リテ、恩頼^{オンライ}ヲ尊^{ミツマフ}ビ敬^{キヤウ}ヒ、猶行末^{ユウギンマツ}ノ幸福^{シヤクフ}ヲモ、祈^{イノ}リ奉ルハ甚^シ
 宜^{ヨク}キコ、ロネニケリ、本土深山中人、村里ノ土民ト生レテハ、皆^カ如^カ
 此^{コノ}アラマホシキ^ト也、

小八賀川 東方根方村ヨリ西方大谷村ニ至ル 魚 前ニ同ジ

高欄附板橋 南詰小野村 北詰瓜田村
 長 幅

五五十石
 ア八十九石三斗
 大ムキ二十八石ヨ
 小ムキ十四石四斗
 大豆十八石三斗
 小豆二石六斗
 荏九石六斗
 粟八三斗百廿目ヨ
 アサヲ四十八目
 烟草十二斤
 柿千顆
 山女二百
 大マユ五十ノ目
 小マユ百五十ノ目
 布四十八反
 鞍十八掛
 カアラ十四百十ノ目

根方村 枝村笠根

飛地 荒地
 縦十三町三十間 横一町半
 焼畑二町六畝廿四歩
 外三町八畝六寸十歩 享保三未年浪

高七十一石四斗七升八合 御年貢三分二金納 一大豆納

山林段別木數不詳 木ハ小野村ニ同ジ

家二十四戸

人百四十餘人

産物 大マユ五十ノ目 荏九石六斗 外三町八畝六寸十歩 菅ムシヨ五枚
 小マユ百五十ノ目 布四十八反 クラ繩八十掛

東方白井村ハ十丁 西方瓜田村ハ十二丁

南方山 北方山 高山三里八丁

村ノ名義ハ古シハ小笠原何某、枝村ノ山城ケ尾ニ、小城ヲ構ヘテ住居セリ、城
 并減亡ノ其城ノ下ナル村故ニ笠根トイヒ、本村ハ笠根ノ方ハ近ヤ村故、根方村
 年代不詳ト云シテ、後ニ字音ニテ唱ヘシヨシ、土人ノ口碑ニツタヘタリ、

産土神 日抱尊

祭神 伊太祁尊大神
境内八畝歩

同日抱尊

祭神 伊太祁尊大神
境内四畝歩

右二社トモ祭神ハ小八賀郷ノ総説又小野村ノ條下ニ記シタレハ略之

大清水

國中最第一ノ大清水ニテ、殊ニ清潔也。沸出ル水勢恰モ堤、水ノ埋樋ノ口ニ

出ルニ異ナラス、土人云、日面村出羽ガ平、窟中ノ水、此處ニ涌出ルナラト云、

小八賀川

東方白井村ヨリ西流西方瓜田村ニ至

魚前ニ同シ

琴淵

山事アリトゾ又万葉セハ斐太人之、真木流云雨布乃河、事者雖通船曾不通、ニヨリテ

稗四十二石五斗
アハ二石
大ムキ八石
小ムキ六石
大豆八石
小豆二石
ソハ六石
キビ三斗
荏二石
菜タネ一升七合
菜ハ子二百ノ目
麻ラ五ノ目
楮五ノ目
烟草三升
梅一斗五升
李一斗
山ナシ五升
麥季一升
栗一斗
榎一斗
大ムユメ目

白井村

縦八丁 横二丁半

焼畑一町六段八畝廿一步

高四十三石二斗八合

御年貢三分二金納
一大豆納

山林段別木數不詳

木ハ小野村ニ同シ

家十七戸

人九十餘人

産物

東方 芦谷村ハ八丁

西方 根方村十丁

高山 三里半十丁

南方 山

北方 山

村ノ名義ハ、此村ニ清水ナキ故ニ古シテ井ヲ掘シ、水濁リテ色白ク用
水ニ成カクキ故ニ、川水ヲノミ用ニ来レリ、夫ヨリ村名ニ負タリトシト近
キ頃川ノ南ノ山ヨリ出ル溪水ヲ、長樋モテ、引来テ用水ニスルトゾ

ハマユナセメ目
布二十反
カフラナ千七百ノ目

産土神 日抱尊

祭神 伊太祁曾大神

元祿檢地ニハ阿弥陀堂ニテ除地ト成其後モ同久神社ノ傍ニ阿弥陀堂

アリ、

阿弥陀堂

本尊

境内二畝二十步

小八賀川 東方芦谷界ヨリ西流西方根方界ニ至ル

魚 前ニ同

蘆谷村

焼畑 四段九畝步

外九段八畝步

享保三未年渡

高十九石八斗四升二合

御年貢三分

二金網
一大豆網

山林段別木數不詳

木ハ小野ニ同シ

家十戸

人五十餘人

産物 小野村ニ同

東方 日面村ハ十八丁

西方 白井村ハ八丁

南方 山

北方 板殿村ハ坂越十丁

村ノ名義ハ此村ノ谷ニ蘆生シケリタル故ニ、村ノ名ニオヒシナ

ルベシ、

穧 二十石
ソバ 四石
大豆 三石二斗
小豆 八斗
アハ 六斗
キビ 一斗
苧 一石
粟 八千二百ノ目
アサ 五ノ目
楮 五ノ目
烟草 五斤
桃 二升
リンゴ 二升
大マユ 三ノ目
小マユ 十ノ目
布 十反
菅 庭ニ束
カフラナ 百ノ目

産土神富士神社

祭神木花開耶姫命
境内二段歩

神名式云、駿河ノ國富士郡、淺間神、社名神、一宮記云、大山祇神

女、木、花開耶姫ノ命、三才國會、勸請ノ来由年代詳ラス、○古史

成文三卷、三十四丁才
百四十七段云、木、花之佐久夜昆賣ノ命者、坐駿河ノ國福

慈岳也

小八賀川 東方日面界ヨリ西流西方白井界ニ至

魚前ニ同ジ

板殿村

縦十丁 横四丁

焼畑一町四畝歩

外二町八畝歩

享保二年年渡

高五十二石四斗七升六合

御年貢三分二金納
一大豆納

山林段別木數不詳

家十九戸

人百十餘人

産物 小野村ニ同

東方 日面村ノ十五町

西方 根方村ノ十八丁

高山 三里半

南方 戸谷村ノ八町

北方 十二ヶ嶽

村ノ名義ハ、古シ、村内城ノ腰山ニ井戸某、小城ヲ築キ住居セリ、井戸殿ト言シテ、唱訛レルニヤ、今モ井戸ト稱ル、村民ニ戸アリ、何レモ古ニハ、城主ノ末葉之、ト口碑ニツタヘタリ、○抄井田郷伊豆常陸式井田社伊豆家名井田

米十一石
五十三石
大ムキ三石五斗
小ムキ一石五斗
大豆二石
小豆二石四斗
アハ二石二斗
ソバ八石
キビ八斗
在石
粟ハ三斗三百廿五目
アサヲ五斗
楮十五石
烟草三十斤
李三斗
柿二斗
栗三斗
楮二分
大ニ九ノ目
ハニ九ノ目

布二十反
管延三束
カラ九百五十目

諸國ニアレハ井田殿カ産神ノ名ニヨレハ伊太殿カ
産土神日抱尊

祭神伊太祁曾大神
境内一段二畝十五步

同日抱尊宮舊地

境内二畝十步

薬師堂

本尊

境内一畝十八步

十二ヶ嶽 山尾通ヨリ北ハ吉城郡折敷地村山内也又ハ西ハ大宜村山内也

- 木 多ク和檜俗云白檜赤檜
- 草 蕨葛獨活芍薬黄連桔梗細辛蓬
- 鳥 鶇鷲角鷹鷹山雞雉子鳩鴨木兔梟断木
- 獸 熊猪猿狐貉狸兔貂



日面村

燒畑四町七段五畝步

外九町五段步 享保十二年渡

高百三石八斗四升八合

御年貢三分二金納 一大豆納

山林段別木敷不詳 木八前二同

家三十戸

人百八十餘人

産物

小爾 楮 麻 苧 蕪菁 大豆 蕎麥 胡桃 獨活 雨樋 水流盤

東方 塩屋村へ十八丁

西方 芦谷村へ十八丁

高山四里半

南方 川南 駄吉村二丁

北方 山

村ノ名 義ハ山陽ニアル村里ナレハ日面 此乃トイヘルヲ、此子母ト訛レルニヤ

アラム、

罫百六十九石二斗
ソハ二十五石
大ムギ三十二石
小ムギ十三石二斗
大豆二十四石三斗
小豆三石七斗
アハ三石五斗
荳蔻四石五斗
白芋三十四石
麻二百十五石
大マユ二十石
小マユ四十六石
菅延百二十枚
布十五疋
カブラ十五百四十疋

産土神日抱尊四社

祭神伊太祁曾大神

三畝十步

境内 三段三畝十步

五畝十步

小八賀郷ノ総説并小野村條下合見ルベシ

普門山善久禪寺

禪宗洞下 高山素玄寺末 開基年代不詳

本尊釋迦如來

境内屋敷二畝步

阿弥陀堂

本尊

境内十三步

地藏堂二宇

本尊

境内 一畝廿六歩
十五歩

出羽ヶ平 テハカミラ 日面村ヨリ半里計山奥ニ野アリ出羽ヶ平ト云

窟 出羽ヶ平ノ山 凡三上ニアリ、口總ニ五六尺四方、深キト甚廣大ナリ、白

晝ニテモ、窟中ハイト闇キ故炬火ヲ燈シテ入、窟上ヨリ白濁リタル水

滴リテ、石乳トナレリ、

俗ニ傳ス古シハ難波高津宮ノ御代ニ、両面宿儺ト云ルモノ、此窟中ニ住

リトゾ、下保村千光寺條下ニ、詳ニ記セリ、

日面山 草 板殿村十二ヶ嶽ニ同ジ

小八賀川 東方鹽屋界ヨリ西流西方芦谷界ニ至ル 魚 前ニ同

日影村

焼畑一町一段三畝十五歩

外二町二段七畝歩 享保十二年未年渡

高三十八石四斗八升六合 御年貢三分 二金納 一大豆納

山林段別木數不詳 前ニ同

家十二戸

人七十餘人

産物 日面村同

真ウクニ肥 麻百ノ目 楮三ノ目 水ナシ盤十 木ナシ百子 桶木杵四丁 槌八丁 樽四十束 薪百十四間 クラハ八十三掛

東方駄吉村ハ十二丁

西方山

南方山

北方川北 芦谷村三丁 日面村ハ十丁

村ノ名義ハ、山陰ニアル村ナレバ、川ノ北ナル日面村ニ對ヘテ、日影 此可トイ

ナルナルベシ、

絹八十二石
ソバ十九石
大ムギ十二石
小ムギ十五石
大豆十五石
小豆一石五斗
アハ二石五斗
キハ二斗八升
苧一石
白苧六石
桑千二百ノ目
麻百ノ目
大マユ十五ノ目
小マユ十五ノ目
布十一疋
カララ十三百キヤノ目

産土神日抱尊二社

祭神伊太祁曾大神

境内 七畝十五歩
廿五歩

小八賀郷総説ト小野村條下ニ委ク記セリ

小八賀川 東方駄吉界ヨリ西流

魚前ニ同

駄吉村

縦四町 横一町十五間

焼畑六段一畝十五歩

外一町二段三畝歩 享保十二未年渡

高六十四石五斗六升七合

御年貢三分ニ金納一匁

山林段別木數不詳 前ニ同

家二十四戸

人百二十餘人

産物

日面村ニ同シ

東方岩井谷村ハ八町

西方日影村ハ十二丁

高山四里半

南方山

北方川北 塩屋村ハ十丁
日面村ハ二丁

村ノ名義詳ナラス 駄吉

志

ハ湯桶訓ニテ不穩

古名正シキ稱ニアリ

ツラム猶他日繹スベシ

方言ニ誰ヲ太礼トイヒ垂ルヲ太礼留トイヒ手ヤ足ノ

秤百十六石
ソバ三十石
大ムギ二十六石
小ムギ六石
大豆三十石
小豆八斗
キビ三石八斗
アハ十石
荏八石
白芋十石
粟三千五百メ目
アサラ二百五十名
大ムギ三十五メ目
小ムギ七十メ目
菅筵百五十枚
布十二疋
カブラナ四百六十疋



高野山
 大丹池
 池俣
 山石井谷
 旗鉾
 曾傳
 久手
 手舞峠

ニ村名ニオヘル歟能尋ヌヘシ

小八賀川 東方旗鉾界ヨリ西流西方日面界ニ至ル

魚前ニ同

高野山
 大丹池
 池俣
 山石井谷
 旗鉾
 曾傳
 久手
 手舞峠

旗鉾村

枝村曾傳

焼畑七町八段八畝廿五歩

縦土町 飛地横二町

外十五町七段七畝二十歩 享保十二未年渡

高百五十一石四斗一升七合

御年貢三分二金納一六豆

山林段別木數不詳 前二同

家四十戸

人二百二十餘人

猪二疋 猿三疋

産物

大繭 小繭 林檎

楮

麻苧

蕪菁

大豆 蕎麥

胡桃

獨活

山葵

小白木

東方久手村へ一里

西方塩屋村へ三丁

高山五里三丁

南方川南

岩井谷村へ三丁 池ノ俣村へ半里

北方枝村曾傳へ八丁

村ノ名義、ハタホコ、和訓栞云、文選ニ撞ヲヨメリ、延喜式ニ幢ニ作り、○靈

異記ニ、小子部栖輕、勅命ヲ蒙リテ、赤キ幡柁ヲ擎テ、馬ニ乘テ、雷神ヲ

稗百四十石
ソハ十五石二斗
大ムキ八石二斗
小ムキ六石四斗
大豆十四石
小豆一石二斗
苧五斗
菜タネ三斗
白芋三十石
粟ハ千二百メ目
アサヲ七十メ目
大ムキ三ノ目
小ムキ九ノ目
布二十疋
カラナ五百八十疋

万葉十六卷 鮮 飯 羅
門乃作有流 小田字 契
鳥 臉 腫 而 幡 幢 亦 居

捕へ帰リテ 天皇雄略 へ奉ヤシテ見ユ、因ニ云 抑旗鉾テフ言ハ、村名ニ負

タルハ古シハ當村ノ神祠ヘイトク 嚴シキ幢ヲタテ、祭祀セシノ有シ

故ニヤ、枝村曾傳ノ名義ハ、和訓栞ニ、袖ヲヨメルハ衣手ノ義也、人

ヲ曾氏ニスルト云ハ、衣ノ身ト袖ヲ分ツヨリ、身ニスルト云裡ナル物

ニソテサマニト云詞見エタリ、衣ニトリテハ本村ハ身ノ如ク、袖ノ浦ハ出羽國

袖ノ湊ハ筑前博多ニアリ、袖ノ浦ハ鎌倉稻村崎ノ海濱ナリ云リ、袖ノ

濟ハ陸奥國、袖ノ河原ハ山城國、宇治郡四宮河原ライフ、衣笠内大臣ノウタニ、

都ヲハ今朝ソタチツル旅衣、ソテノカハラノ霧ノ迷ヒニト見ユ、何レモ

山海ノ差別コッアレ、名義ハ同ジカラム、然レハ此山里ヲ、袖ノ山里ト云

テモ、難ユトハアラジ、

産土神 日抱尊社 旗鉾村口ニ坐

祭神 天照大御神
伊太祁曾大神

境内一段二畝十步

勸請来由年代詳ナラス、文化十一年、天照大御神ノ御札、社頭ニ天
降坐テ、樹枝ニ懸リ玉ヒヌトテ、郷中ノ村民ハサラ之、高山市中、
及近郷ノ民、我モ一ト群集参拜之、後ニハ國中隣國マテモ、聞傳ヘ
テ、参詣セシトアリキ、小社ニハアレ氏、イトモ神サビタル社頭也、

同日抱尊社 枝村曾傳ニ坐

祭神 伊太祁曾大神
境内四畝十步

右伊太祁曾大神ノ事ハ、當郷ノ総説、并小野村條下ニ記セリ、

旗雲山慈雲禪寺 禅宗洞下 高山素玄寺末
開基年代不詳

本尊正觀音
境内屋敷二畝二十一步

右山寺号ニ旗雲ノ字ヲ用ヒタル由縁詳ナラス

薬師堂

本尊
境内四步

地藏堂

本尊
境内十三步

十王堂

秦廣王 初江王 宗帝王 五官王 閻魔王
變生王 泰山王 平等王 都市王 轉輪王
境内十二步

旗鉾山
曾傳山
草木鳥獸凡板殿村十二ヶ嶽日面山等ニ同シ

池ノ俣川
沃上川
久氏川
合流小八賀川
東方久氏界ヨリ西方塩屋界マテ一里餘西流

魚石魚

岩井谷村

枝村沢上

焼畑四町一段八畝十六歩

外八町三段七畝二歩 享保三年渡

高五十一石三斗三升

御年貢三分 二金納 一大豆

山林段別木數不詳 前ニ同

家二十九戸

人百六十餘人

産物 旗鉾村ニ同シ

東方池ノ俣村ノ八町

西方駄吉村ノ八町

高山五里ヨ

南方枝村沢生ノ半里

北方川北旗鉾村ノ三町

村ノ名義ハ詳ナラス、惟ニ大八賀郷ノ水源ニ山岩井村アリ、又此小八賀郷ノ水源ニ

岩井谷詞ナラムカ、村アリ、何レ所以アルコナラムカ、抑此小八賀川ノ水源ハ三ツノ
村名義ハ、岩モテ谷水ヲ堰テ引來テ用ル村故岩堰谷ノ名ニヤ、負ツラム堰井共ニ用水ノ義ニトゾ

ヒ五百二十一石五斗
ソハ十二石七斗
大八和四石
小八和四石八斗
大豆六石
小豆八斗
アハ四石
薩五斗
菜タネ三斗
白芋五石八斗
粟ハ五百メ目
アサヲ百十メ目
梨ニ斗
文三九メ目
小マユ二十一メ目
カブラナ六百二十百

谷川也、一ツハ池ノ俣村ヨリ流レ出、一ツハ岩井谷ノ内沢上ヨリ流レ出、此岩井谷ニテ、流落合テ、

小八賀川 古ハ八丹生川ト言シヨシニ、ト成テ、流末ノ當郷中ノ村里ニテハ、何レモ

此川水ヲ堰テ、田ヲ佃ル故ニ、其水源ヲ齋祭ル心ニテ、齋堰溪ト稱シ義ナ

ラムカ、猶能可考、井ハ用水ヲ言名ナルコト、大八賀郷

枝村沢上 左波ハ 岩井谷ナル 沢ノ上 ウレハ万葉ニ多シ ト云ナルベシ左波宇礼ヲ

約ノテ左不礼ヲ訛テ 今ノ俗言 稱ナルベシ

産土神荒神二社

竈神

祭神 火産靈神

庭火神

六畝二十步

境内

三畝十步

祭日

氏子

祭日

氏子

神道大意 平田篤胤撰俗ノ 一ノ三十三丁 一ノ要ヲ摘テ云、速須佐之男ノ神ノ御子ヲ大年神

ト申ス、俗ニ年神様トイフ是也、曆ノ首、 是ハ穀物ニ、大キニ御功アリシ御神ニテ、

具御子ヲ、奥津日子神、奥津比賣命ト申テ、此者諸人以拜竈神者

也、古事ト有テ此二神ハ、 諸民ニカマドヲ立テ、者火炊ク事ヲ、御教ヘアツバ

シタル神ニマス故、神代ヨリ家々毎ニ、祭リ来レルヲ、朝廷ノ大炊寮ニ

テモ、天白皇ノ御膳ヲ、御饗キナサル、所ニ、重ク御祭リアツバサレシ之、其ハ延

喜式ニ、竈神四座ト有テ、是ニ大産靈神ト、庭火神トヲ加ヘテ、御祭ナサレ

シ之、此ハ火神ノ御靈ヲ賜リテ、物ハ成ルコト故也、此火神ハ、御母伊邪那

美神ノ惡子ト仰ラレタル如ク、御心荒ク坐神ニオハシマス故、古クモ荒神ト申シ

タリ、紀伊ノ國ノ玉置山ニ、荒神祭ノ神社有テ、火神ヲ祭リト、天野信景ガ

塩尻ノ記ニ有、サテ俗ニカマドノ神ヲ荒神ト云テ、頭ノ三ツアルケシカラヌ物ヲ
 祭ルハ、火ノ神ヲ荒神ト申ニツケテ、西部習合ハジマリテ此カタ、天竺ノ障礙
 神ノ一名ヲ、荒神ト云テ、一切ノ障礙ヲナス物故ニ、モロノ、修法ノ時ニマツ
 此神ヲ祈リ和ムル、密家ノ秘法ニ、其ヲ荒神供トテ、字ノ同シキマ、ニ此
 竈神ニ附會セシ也、本書ニクハシケレバ、イニ古シノ村民、カ、ル差別ヲ、夢ニマ
 知ラス、其頃ノ僧等ニ欺カレ、一切ノ障礙ヲナス、天竺ノ荒神繪ニカキル
赤裸ニテ破
團扇ヲ持テ人ノ家ヲアフガテ夫婦
ニ喧嘩ヲサス貧乏ノ神ト思ヒ違ヘテ、其ヲ敬フハ何事ゾ、凡世ニ住人ハ
 諸穀物ヲ豊饒ニ授玉ヒ、其ヲ煮炊テ、飽マテ熟食ハセ玉フ、大年ノ神ト、
 竈神ト、火ノ神トノ恩頼ハ、深ク厚ク、仰キ奉リテ、尊ヒ敬ヒ、イツキ
 マツルベキ事ナラスヤ、

産土神日抱尊社

祭神伊太祁曾大神
 境内一段三畝十歩

祭日

氏子

観音堂

本尊

境内一畝五歩

沢上山木

檜ヒノキ 榎エノキ 桂カウラツキ 槻ツキ 多和檜タワヒ 唐檜タクヒ 白檜シラヒ 俗云俗云 白檜白檜 俗云俗云

相傳古シハ此山中ヨリ材ヲ伐テ益田郡青屋村山ハ多和越ニ引出

シ谷出シテ益田川ヲ川下セシトゾ

草烏 歎旗鉾山ニ同シ
 池ノ俣村ニ同シ

騎鞍嶽

小八賀川

水源沢上ノ山奥泉鞍嶽ヨリ出テ岩井谷ニテ三川合流
 西ノ方駄吉村ニ至

魚石魚

池ノ俣村

燒畑二町八段五畝廿步
外五町七段一畝十步 享保三未年渡
高十八石一斗八升二合 御年貢三分二金納
一大豆納

山林段別本數不詳 前二同

家十戸

人三十餘人

産物 旗鉾村ニ同ジ

東方嶽

南方嶽

西方 岩井谷村ノ八丁

北方 旗鉾村ノ廿二丁

高山六里

村ノ名義ハ此村ノ山奥ニ國中第一ノ大岳乗鞍嶽アリテ大野吉城益
田ノ三郡ニ跨リ岳上ニ四十八池アルヨシ之其内大丹生小丹生其外ノ池水潛リ出テ

秤六十石
ソハ一石五斗
大ムギ八斗
小ムギ六斗
大豆二石
小豆一斗五升
アハ八斗
白芋二石
粟ハ百ノ目
アサヲ二十五ノ目
稗三斗
稻五斗
大マユ五百目
小マユ一ノ五百目
布六疋
カブラナ二百ノ目

此村ハ流レ出是ハ八賀川ノ水源之故古シハ丹生川ト云之郷中ノ村民
請雨ニハ此村ヨリ大丹生ノ池邊ニ登ルヨシナレハ大丹生ノ池岐ノ義ナ
ルベシ俣字ハ古事記姓氏錄其餘古書ニ用ヒタル例多シ

産工神日抱尊

祭神伊太祁曾大神

祭日

氏子

地藏堂

本尊
境内八步

騎鞍嶽

麓ヨリ三四里ノ間ハ諸木アリ夫ヨリ上ハ生木ナシ適高ハ三四尺計
ノ樅木アリ巖滑カニシテ草柘植多ク生シテ苔ノ如シ又藤松類也

地ニ敷ケリ凡テ深雪暴風ノ為ニ高ク伸ルヲ得ス自然ニ豈又ノ如ク
地ヲ這テ編ル如シトナン濁池青魚池赤池上池下池野池燧池
摺鉢池曲り池土樋池平池雌池雄池小丹生池大丹生池
水清潔ニシテ池底マテ等凡テ四十八池アリトツ郷中旱魃ニハ
見エ透ルトガ
此大丹生池ニ来テ請雨スルトツ○畸人傳云僧圓空ハ美濃
國竹カ鼻ノ人ニ云ク、飛驒ノ、袈裟山千光寺ニ遊ブク、圓空モ
テル物ハ、鉞一挺ノミ、常ニ是ヲモテ、佛像ヲ刻ムヲ所作トス、又人ヲ
見、家ヲ見テハ、或ハ久シク保ツベシ、或ハイクホドナク、衰アベシトイヘ
ルニ、一ツモ違フヲナシ或時此國、高山ノ府、金木林侯ノ居城ヲサシテ、此
所ニ城氣ナシト云ニ兩年ノ間ニ、候出羽ノ國替有テ、城ハ外郭計ナリ又、又大丹

生ト云ル池ハ、池ノ主、ヒトヲトルトテ、常ニ人ヒトリハ行ズ、二人エケバ故ナシ
ト云リ、アル時圓空見テ、此水コノ頃ニアセテ、アヤシキヲアリ、國中大ニ
災ニ罹ルベシト云シカバ、元来具不思議ヲ知ル故ニ、人々、驚驚キ、イカニモ
シテ、此難ヲ救ヒ玉ハヒト願ヒシカバ、ヤカテ彼鉞ニテ、千鉢ノ佛像
ヲ、不日ニ作りテ、池ニ沈ム、其後何ノ故モナクハタ是ヨリ一人行人モト
ラル、コト止ミケルトナムト有、池ノ主ト云フ土人口碑ニ專ライヒツ
タフ○古史傳五卷ナハ云、高靈神、靈日本紀御紀神代卷ニ此云於箇美ト見古事記上
ニモ添ナカ加美トカケリ、字書ニ龍也、又靈神也、本居翁ノ説ニ添加ノ美ハ龍也
ノ類ノ稱ク、和名抄ニ、水神マタ蛟イハ又和名美豆ツ知トアル美、コレナリ、
又蛇ハ蛟ハナトノ美モ是ニ、景行天皇卷ニ、天皇豊國ニ行幸ル時ニ云ク、

稱百廿二石二斗
 ソハ十二石
 大ムキ八斗
 小ムキ六斗
 大豆二石八斗
 アハ一石六斗
 荏三石五斗
 菜種三斗
 粟ハ二百メ目
 アサヲ二十ノ目
 大マユノ五百目
 小マユノ八百目
 布八疋
 カアラナ三百十五名目

久手村

高二十三石五斗一升五合
 山林段別木數不詳

家十五戸

人七十餘人

産物 旗鉾村ニ同ジ

東方 吉城郡平湯村へ峠越二里八町

南方山

北方山

高山六里

村ノ名義ハ、此村ハ、小八賀郷ノ山奥ニテ、平湯へ越ル嶺ノ山中ニ、彼是ニ
 湫クテ久クテアレハ、村名ニオヘル成バシ、久手ハ湯桶訓ニテイカバ、
 假字ニハ久クテトカシ、○和訓栞云、

蛇靈ノ居タリシカハ云々、万葉ニ、吾崗之於可美尔言而令落雪之
 摧之彼所尔塵家武トアル、此神ハ龍ニテ雨ヲ物スル神ニ云々、神名
 式ニ、備後國甲奴郡ニ、意加美ノ神社、惠蘇郡ニ、多加意加美ノ神社、
 河内國石川郡ニ、太祁於賀美ノ神社、茨田郡ニ、意加美ノ神社其外諸國略之
 大和國吉野郡、丹生川上雨師ノ神社名神、大月次新嘗トアリ、雨師トハ、抱朴子ニ、辰日雨師者龍也トアリ、此神ヲ雨師ト云々、漢風ノ稱之、三代格、寛平十七年ノ符ニ、名神本紀ニ、曰、不聞人声之深山、吉野丹生川上、立我宮柱、以敬祀者、為天下降甘雨、止霖雨者、依神宣造トアリ、仁明天皇紀、承和七年十月ヨリ、神階昇進アリテ、陽
 成天皇紀、元慶元年六月廿三日、奉授丹生川上雨師ノ神ニ、正三位、
 ナドアレハ、此大丹生池、神ト同神ナルト疑ナシ、此池、辺ニ
 宮柱ヲ建テ、敬ヒ齋キ祀ラム、ヨシモガナ、

烧畑二町一段九畝步

外四町三段八畝步 享保三年未年渡

縦十八丁飛地横二丁
 御年貢三分ニ全納一大豆納



瓜田村

枝村 中畑 蔵野

焼畑一町七段三畝五歩

高百七石二斗七升八合 縦四丁 横二丁

山林段別木數不詳 木町方坊方三同

家二十五戸

人百四十餘人

産物

大マユ三十ノ目 苧八石五斗麻 楮
 小マユ九十五ノ目 布 薪廿間 石灰

東方根方村へ十六丁

西方法力村へ十八丁

南方川南小野村へ十二丁 北方山

村ノ名義、瓜ノ佳味ナル地トモ不聞、瓜ハ陸田ニ作ル物ナレバ、瓜田ト書テ
 莫リノマニニ

宇利太ト訓テハ 諸國ニ例ナキイカバ、日本紀神代卷ナル粟田豆田ニ
 地名ナレバ

米六十六石
 大豆十石
 小豆二石八斗
 アハ二石
 ソバ六石
 苧七石
 粟ハ千三百ノ目
 アサヲ三十ノ目
 楮三十ノ目
 ハコ五斗
 梅六斗
 李三斗
 栗二石四斗
 布五十反

倣^{ナラ}ヒテ、瓜^{ウリ}田^タ 宇利ト訓^トベキニヤ 禾生麥生參生蓬生ナトノ生也 ○和名抄ニ日向國^{ムラカシ}諸縣

郡^{ウリ}瓜^{ウリ}生^シ 宇利布乃國加用野字 ○倭訓栞中編ニ瓜生山ハ山城國^{シカガニ}鹿谷^{シカガニ}ニ瓜生野遠

里小野トヨメルハ攝津國住吉トイヘリ、姓ニ云ハ越前國^{セツノ}杣山ノ城

主、瓜生保アリト云リ、○大日本史卷百七十五列傳ニ瓜生保稱判官

越前人也云々、保及弟、義鑑源琳戰歿、後、弟重為越前守、照加賀

守トノ屢戰功有シガ、義貞戰死、後、義助軍敗、北國悉為敵所據、重照

不知其所終、トアレバ、新田家ノ名臣等、畑時能^{トキヨシ}ノ子孫ノ如ク、本土ハ南

朝ヨリ、國司ヲ下サレシ國ナレバ、潛ニ来リテ住ケム家名ノ、此村名ニ成シ

ニハアラジカ ○森重利曰、小八賀川ノ水上ニテ、初テ稻田ヲ作ル村ナレバ、

水上田^{ウレガ}ノ意ナラム、ト云ルハ能カナヘリ、思ハレス吉城郡^{キキ}畦畑村^{ウレガ}ヲ、水

上畑^{ウレガ}ナラムト押當タルニ同ジカラム

土人云、此村ハ田中處ニ石多カリ、畠ニ瓜ノナリテ、轉^{マシ}タル如ク見ユル故ニ瓜甲^{ウリ}云説^ハイカハ

遺乘合府^{桐山尉敦}著書云、瓜田城在子瓜田村、ト在、瓜田ハ城主ノ家名ナルベシ

産土神 日抱尊

祭神 伊太祁曾大神

境内 三畝十步

阿弥陀堂

本尊

境内 十步

小八賀川 東方根方村ヨリ西流隣村法力村ニ至



法力村 ハラリキ

焼畑六段四畝十歩

高二百十九石五斗二升五合

山林段別本數不詳 木坊方二同

家二十八戸

人百五十餘人

産物 大繭二百八十石 柿二万五千 真綿十把 猪一疋 山トリ三 ヤシ二

小繭二百八十石 布四十疋 薪十間 生馬一疋 西方殿垣内村へ六丁 高山二里半

東方瓜田村へ十八丁 南方川南大谷村 北方山 欽明紀元年九月辛難波祝律宮

村ノ名義ハ僧等ニ習ヒテ、書換タル名ナルベシ 和名抄ニ山城國相樂

郡、祝園郷モアレバ、法力ハ祝城カト思ヘド、記傳廿三ノ八十一波布理曾能ノ註ト、同廿五卷六十六石棺作トノ註ヲ、能

米百九十石
 五八十八石
 大八千四百五十石
 小八千四百五十石
 大八千四百五十石
 小八千四百五十石
 大豆二十石
 小豆一石五斗
 ソバ四石一斗
 キハ三斗
 苧二石
 菜々々四斗
 菜八千五百八十目ヨ
 アカラ十六メ八百目
 猪十ノ目
 烟草六十斤
 梅四斗
 李三斗
 柿一万五千顆

粟五斗
稻五斗
大ハ三百八十目
木綿十反
布四十反
真綿十把

考レバ、葬棺トモ聞ユレバ、イカバアラム、何レ古シハ、名義ハ、メテタキ言
辞ナラムカニ、能考フベシ、

産土神熊野社

祭神須佐之男、命

祭日 氏子

境内二段八畝十八步
祭神坊方ニ同

観音堂

本尊

境内二段六步

他村ニ比テハ、過當ニ廣キ除地也、

小八賀川 東方瓜田村ヨリ西流、隣村殿垣内ニ至、

殿垣内村

焼畑二段八畝八步

高百三十四石九斗八合 縦五丁 横三丁

山林段別木數不詳 木坊方ニ同

家十七戸

人百人餘

産物

大マユ三十ノ目 真ワタ十八把
小マユ百十ノ目 布五十一反 薪十二間 石灰十六石八斗 山トリニ

東方法力村ハ五丁

西方小木曾村ハ三丁

高山ニ里三丁

南方川南坊方村

北方山

村ノ名義ハ、土人口碑云、昔年代土居何某ト云士來リテ、此村ニ住リ、
里民其威儀ニ感服シ、尊敬シテ仕ヘ、其居處ヲ、殿垣内ト唱ヘ

米二百四十三石
五五十五石
大ムキ八石一斗
小ムキ八石一斗
大豆十石
小豆三石
アハ二石
荏一石
粟千四百十ノ目
アヤラ十二ノ目
猪百ノ目
粟一石
柳三十ノ目
大マユ
小マユ
布二十五反
延五十束

紀伊國名所圖會後編
 五卷、日高郡山地、龍
 神温泉湧出、殿垣内村、
 龍神和泉守故居、注、
 云、和泉守ハ、源三位頼
 政卿ノ後也、乱ラサケテ此
 地ニ来住、龍神氏ト稱、
 其居所ヲ、殿垣内ト名
 シテシト云也、
 若山藩士伊達、大平門人
 千廣龍神出湯日記云、
 此宿主物語ハ、竜神氏
 ニテ、弥吉政義トヨリ、竜
 神一族ハ、源三位頼政卿
 五男和泉守頼氏此山
 中ニ落来テ、此奥ナル
 殿垣内ニ隱住リ、殿ト
 イハルモ其政也、未孫
 今ニ竜神ヲ氏トシ名
 ニ政字ヲ付ト語ルニ、
 其古サハ忍ハレテ、櫻花
 本ノ根サシヲ尋ネズハ、
 只深山木ト見テヤ過
 ナム、

シテ、垣内ノトハ、大八賀郷漆垣内ノ名義、万葉集、又神代紀ヲ引テ、イヘルカ、
 モトハ加岐津ナレド、後、音便ニテ、加伊登ト云リ、漆垣内ノ條ヲ見ルヘシ、
 後、六、遂
 ニ、村名ニ成シトゾ、今モ當村ノ民、四郎左門 等ハ、大日本史、卷百七十列傳云、
 家名ヲ土居ト稱来レリトゾ、

土居通治稱二郎得能通言稱三郎並伊豫人河野氏族也、
 按、土居、得能、新居、高市、今井、松本、難波、江、
 德永、高部、諸氏、皆河野氏、支庶所稱也、云々、四國ノ主將、脇屋義助病歿、後、

土居通郷、通治得能彈正通言細川頼春ト戦、不利シテ、退テ備後ノ
 子、

鞆城ヲ取、敵又来攻、後不知其所終トアリ、按ニ其土居氏、此村ニ
 来リテ、隱住シナラムカ、川上郷ニハ、得能、德永ノ地名アリ、又

國中ニハ、新居、今井、松本等ノ家名ヲ稱ルモ多シ、猶能温ヌビシ
 祭神

産土神
 祭神

小八賀川 東方法カ村ヨリ西流隣村小木曾村ニ至

高百三十二石七升六合 縦四丁 横三丁

山林段別木數不詳 木町方坊方ニ同

家十六戸

人百人餘

産物 大マエ六ノ目 真ワタニ把 エニ斗 楮十九ノ目
 小マエ三ノ目 布セ一反 干ハウニ百目

東方殿垣内村ハ三丁 西方下坪村ハ三丁 高山ニ里

南方川南坊方村ハ五丁 北方坂越大萱村ハ半里

村ノ名義ハ、口碑ニ相傳云、昔幼君ヲ守護シテ来リシ人、此村ニ寓居

シテ、若君ナレバトテ、小木曾殿ト云シト、其ハ早世ナリシニマ詳ナラス、其

米百六十五石ヨ
 五二二十四石
 大ムキ四石八斗
 小ムキ三石八斗
 大豆六石二斗
 小豆一石三斗
 一ハ一石八斗
 大根三百ノ目
 カカラナ四百ノ目
 菜ハ六百十四ノ目
 アサヲ十二ノ六百目
 楮十九ノ目
 タハコ四十斤
 弘法茶五ノ目
 大マエ六ノ百目
 小マエ三ノ百目
 布十疋

米百六十五石ヨ
 五二二十四石
 大ムキ四石八斗
 小ムキ三石八斗
 大豆六石二斗
 小豆一石三斗
 一ハ一石八斗
 大根三百ノ目
 カカラナ四百ノ目
 菜ハ六百十四ノ目
 アサヲ十二ノ六百目
 楮十九ノ目
 タハコ四十斤
 弘法茶五ノ目
 大マエ六ノ百目
 小マエ三ノ百目
 布十疋

米百六十五石ヨ
 五二二十四石
 大ムキ四石八斗
 小ムキ三石八斗
 大豆六石二斗
 小豆一石三斗
 一ハ一石八斗
 大根三百ノ目
 カカラナ四百ノ目
 菜ハ六百十四ノ目
 アサヲ十二ノ六百目
 楮十九ノ目
 タハコ四十斤
 弘法茶五ノ目
 大マエ六ノ百目
 小マエ三ノ百目
 布十疋

米百六十五石ヨ
 五二二十四石
 大ムキ四石八斗
 小ムキ三石八斗
 大豆六石二斗
 小豆一石三斗
 一ハ一石八斗
 大根三百ノ目
 カカラナ四百ノ目
 菜ハ六百十四ノ目
 アサヲ十二ノ六百目
 楮十九ノ目
 タハコ四十斤
 弘法茶五ノ目
 大マエ六ノ百目
 小マエ三ノ百目
 布十疋

米百六十五石ヨ
 五二二十四石
 大ムキ四石八斗
 小ムキ三石八斗
 大豆六石二斗
 小豆一石三斗
 一ハ一石八斗
 大根三百ノ目
 カカラナ四百ノ目
 菜ハ六百十四ノ目
 アサヲ十二ノ六百目
 楮十九ノ目
 タハコ四十斤
 弘法茶五ノ目
 大マエ六ノ百目
 小マエ三ノ百目
 布十疋

守護ヤシノ末葉也トテ、長百姓善右衛門ト云ル家ハ、代々今井氏ト

云トフ、長門本平家物語ニ、木曾義仲ニ子四人アリ、義高、カ壽、鶴王、餘名王ト見
ニ本文ノ知君ハ、此内ナルベシ○今井兼平ハ、諸書ニ子ヲ記サスハ、洩タルナルベシ、此村ノ今
井ト、別人カ益田郡小坂郷大洞村ノ内、若初ハ、追シ来テ、其子孫、宮田村ト、四美村ノ民幸左門ノ
先祖トニ別シテ、同シク今井兼平ノ末葉故、代々今井ト云家名ナルヨシニ、交流庶流分明ナラズ、

産土神白山社

祭神

祭日

氏子

境内八段三畝十步

此白山社ハ花里村一本杉ト同越前ノヲ勸請セシ成リ
此社殿ハ郷中普請ノヨシニ隣村殿垣内下坪等ノ民ハ此氏子歟

大貴山正宗禪寺

禪宗洞下 高山素玄寺末 在下田
開基年曆未詳中興天川亮慶長十六辛亥年寂

本尊釋迦如來
境内屋敷八畝二步

藥師堂

本尊
境内二畝四步

小八賀川 東方殿垣内村ヨリ西流隣村下坪ニ至

砂田川 美濃國武儀郡金山村字井尻ニ有水源同郡桐洞村ヨリ出ツ桐洞ハ是上
有知等ノ往還ナリ

菅田ノ誤ナランカ
名所ナリト云傳フ
鮎ヲ捕也

下坪村 シモツカ

高百四十八石二斗三升一合 縦七町 横一町

山林段別木數不詳 木町方坊方同

家十四戸

人六十餘人

産物

大マユ 真綿百三十目 荏一石 楮百六十六目
小マユ 布十五疋

東方小本曾村へ三町

西方細越村へ六丁

南方川南坊方村十八町

北方桐山村十丁

高山一里三十四丁

米百三十三石七斗
七斗八石八斗
大ムキ四石七斗
小ムキ七石五斗
大豆十一石一斗
小豆二石
荏一石
ソバ二石二斗
大根二百ノ目
カラ三百ノ目
菜ハ千二百ノ目
アサヲ四ノ三百目
大マユ十三ノ目
小マユ四十ノ目
布十五疋

村名義ハ、戸令ヲ考ルニ、上代ニ此村ヨリ、桐山細越下保マテ一村ニテ、下保ト唱ヘテ、小本曾ヨリ並ニ此村トテ、上保ト唱ヘテラムヲ、中昔ハサッ別チテ、數村ニ成シハ非カ、熟考フベシ、

産土神

阿弥陀堂

本尊

境内二十步

観音堂

本尊

境内十八步

小八賀川

東方小本曾村ヨリ西流細越村ニ至ル

魚 石魚

大萱村

燒畑一町五段二畝廿二步

高百七十三石二斗六升八合

縱三十町
横五十間

山林段別木數不詳

家三十六戶

人百七十餘人

產物

炭大五三十五目
小五十五目七千二百目

薪八十間

荏二石八斗八升 楮百目 苧廿五目

東方 峠越折敷地村ニ里

西方 桐山村ヘ十八丁

高山 二里半

南方 十二ヶ嶽

北方 峠越大沼村ヘ一里

村ノ名義ハ、上古田畝モ開カヌ間ハ、決メテ長太キ、萱原ナリニ改自

然村ノ名ニ負シナラム、和名抄ニ、因幡國法美郡、大草於保加也郷見ユ

米二百四十石
七五六一石二斗
大ムヤ四石三斗
小ムヤ六石三斗
大豆八石二斗
小豆二石一斗五升
アハ二石一斗二升
ソハ一石八斗
粟八四千目
アサヲ十八目
李タゴ平介
弘法茶サ目

延十束
炭七千二百目

産土神山王社

祭神 日枝大山咋神

祭日

氏子

境内 八畝步

觀音堂 二字

本尊

境内 六畝步
十六步

藥師堂

本尊

境内 一畝二十步

太子堂

本尊

境内 二段步

大衆房跡 今里人ノ唱アルニハ 往生房ト聞ユ

十二ヶ嶽 板殿村大萱村 三ヶ村ニ跨

草木鳥獸板殿村ニ同シ

夷嶺

炭竈

米百六十石
 上六十石四斗
 大八斗二石
 小八斗十石
 大豆十石
 小豆二石二斗
 八斗六石
 ソバ一石二斗
 荳八斗
 粟千六百六十五目
 アサニ十五目
 李十五斗
 楮一斗
 アハニ斗
 大マエ四十五目
 小マエ百五ノ目

桐山村

高百四石二斗七升三合
 縦十五町
 横一町五十間
 山林段別木數不詳 木町方坊方向
 家二十七戸

人百四十餘

産物 大マエ四十五ノ目 工八斗 楮四ノ目
 小マエ百五ノ目 布三十疋

東方大萱村ハ半里
 西方 下保村ハ五丁 細越村ハ八丁
 南方下坪村ハ四丁
 北方嶺越 吉城郡 瀨村ハ一里 高山二里

村ノ名義ハ此郷大谷組ヨリ奥ノ村ニテ山ニ焼畑作リテ切替跡ニ桐ノ苗
 木ヲ植テ土理ヲ肥シ其成木スレバ伐テ又焼畑ヲ作レリ此村ニテモ昔シカセシ

焼畑一段五畝歩
 外三段歩

享保三年浪



故ニ桐山テフ村名ニ負シニヤアテム○和訓栞ニ桐ハ屢伐テ、却テ榮ル物
ナレハ名トスト見エタリ

産土神八幡宮

祭神譽田天皇後御謚 應神天皇 大御靈
境内一町五段三畝十八步

祭日 氏子

北道遊簿江戸住藤三齋
藩得齋長戸人美濃加納云、有一村
曰桐山、其間總呼稱
八郎垣内、俗傳鏡西
八郎為朝、寬伏於此
置八幡祠、以禱、版
復、其他所傳頗詳、
但為朝如諸、於鏡
西後流、於豆海、則
無緣居、此地、是為
可疑耳、

勸請年代未詳アル人云此村ニ八郎垣内トカハ郎洞トカイヘル地
名アルニツキテ此八幡宮ハ鎮西八郎為朝来テ石清水ノ大神ヲ
勸請シテ此村ニ住居シテ子孫蕃息セリト云ルハ益田郡上
呂村久豆ノ八幡宮ヲ惡源太義平ヲ祭レリト諸人ノ
云ニ附會シタルナルベシ抑鎮西八郎ハ保元元年七月
亂後八月中ハ京師ヲ忍出タレト九月二日ニハ伊豆ノ大島ハ

八幡宮境内ノ廣キヲ
考ルニ元祿檢地ノ
項ハ金森ノ旧例ニヨ
リ金森家天正中
領國ノ節ハ古例ノ
マ、ナリシナルベシ然
レハ上代ニ宿願征伐
之節武振熊命
此野ニ屯ミテ齋場
トセラレシ跡ナラム歟

流サレタルニ非スヤ、諸書ヲモヨマズ、歴史ノ年月ヲモ、考ヘガル人ノ、
僻説ニコソアラヌ、八郎トイヘル人ハ古来唯一人ニ限ル物カハ、
文政年間、京師ニ、桐山虎三郎源知義ト云ル者ノ書ヲ、
敵覽アリシトテ、名ヲ得タルニ、本土人行テ、書ヲ頼ミケレバ、
知義ハ為朝ノ末葉ト云シヲ聞、其家名ニ思ヒヨリテ、此
桐山村ニハ、八郎洞トカイヘル地名アレバトテ、語り傳ヘシトシ
トゾ、
藥師堂
本尊
境内廿五步
廣人野 村ノ坤方ニ廣野アリ、今ハ大カタ畑ニ作レリ、飛州志ニ云
此留殿原、来由未詳、トアル是ナルベシ、



細越村 ホソガエ

高百八十五石一升二合

縦十一町 横五町

山林段別木數不詳

木町方坊方同

家十九戸

人九十餘人

産物

大マユ二十八ノ目
小マユ百十ノ目

苧一石
布十八疋

楮百ノ目

藍百十ノ目

東方 桐山村ノ八丁

西方橋向

法吉ハ十三丁

南方 八賀川橋新張村ノ五丁

北方橋向下保村ノ六丁

新張村六丁

高山一里半

村ノ名義

米百五十石
正二十一石六斗
大ムキ八石
小ムキ七石二斗
大豆六石
小豆一石八斗
苧一石
アハ六石
ソハ二石
キビ二斗
粟ハ千三百二十ノ目
アサヲ
楮百ノ目
栗九斗
大マユ二十八ノ目
小マユ百十ノ目

産土神明宮

祭神 天照大御神

境内九畝十四歩

小八賀川 東方下坪村ヨリ西流大童川ト合

細越橋

開干附長

幅

新張村ノ掛渡

新張村

高四百七十五石五斗一升五合

縦一里
横二町

山林段別木數不詳 前同

家六十九戸

人三百三十餘人

産物

大マユ四十ノ目 一石八斗
小マユ百八十ノ目 布六十疋

麻世六ノ目 楮二百五十ノ目

東方町方村へ十二町

西方橋向法吉へ八町

高山一里十八町

南方三福寺村へ上野越廿八町

北方橋向下保村へ九町

村ノ義義ハ、往古當郷中ノ村ハ、最初ニ開拓ケ、此村ハ沼沢等ノ多キ地ニハ

最後ニ登キシ故、新張^{ミハリ}張^ハテフ村名ヲ稱ケム、今モ深キ沼田アリテ、

米五百三石七斗
五八十九石二斗
大ムヤ三十一石八斗
小ムヤ九石八斗
大豆二十八石一斗
小豆六石七斗
アハ四十三石五斗
ソバ三十石六斗
菘一石三斗六升
粟二千七百三十七石
アサラ十三ノ目
楮六十ノ目
李三斗五升

大マユ五十ノ目
小マユ五十ノ目
布六十疋
延出十束

田底へ、松ノ丸木ヲ布キ、上ニ土ヲ平均シテ、田ヲ作ルトゾ、サラテハ耕シ、

早苗ヲウエ、田草ヲトリ、秋ノ刈上ニモ、自由ナラヌトゾ傳フ、古人ハカ、

ル地理故ニ、見捨^{ハテ}オキタリシヲ、後ニ人々見テ、可惜ト思ヒテ、田ヲ墾^{オキ}

ケム、村ノ名ニ負シモ其所以ナラム、和名抄ニ、常陸國新治^{ミハリ}郡新治^{ホヒ}

郷、日本武尊ノ珥比麻利菟玖波^{ホヒ}河内國若江郡新治郷アリ、同義ナルベシ

産土神山王社

祭神日枝大山咋神

祭日 氏子

境内一段六畝二十歩

同大菩薩宮

祭神八幡大御神^{譽田}應神天皇^後大御靈^{御謚}

祭日 氏子

此大菩薩宮ハ、古シヘテ宮ノ御神ヲ、勸請シタル由、言ツタヘタリ、一宮ノ御神ノ
コトヲ、在野冊子、総社考ニ、元祿ノ檢地ノ御圖帳ニ、此大神御社ヲ、八幡
宮ト記サレタリトゾ、大秀 按ニ、當昔村長ヲ呼出テ、コノ宮殿ハ、

何ノ御神ゾト問ハレケムニ、委シキコハミラテ、タバ大菩薩宮
 ト申侍ルト、答申ケレバ、大永ノ頃ノ物ニハ、水元大菩薩ト書ケルヲ寛文ノ頃、
アリ、其水元ト申奉ルコトモ、忘タリシニヤ、又タバ大菩薩宮ト申テ、七日町村ノ總
 社、新辰村ナル、又一宮大明神ト申テ、是重村、名張村、打保村、東漆山、
 村ナル、皆此大神ヲ 世ニハ幡大菩薩ヲオキテハ、他神ノ御名ニ、大
 菩薩ト申コトモ、ヲサク聞エス、又毎年八月十五日ヲ以、祭レルモ縁
 アレバ、宇佐八幡宮ヲ始、諸國ニ坐マス八幡宮、皆八月十五日ヲ以、ウケハリテ、ハ
 祭ナリ、高山八幡宮ノ、八朝ニ祭ルハ此祭ニ憚カリテナルベシ
 幡宮ト思定テ、記サレルニコツ有ラメ、云々トアリ此村ナルモ、元
 祿ノ檢地帳、宝曆ノ除地帳ノ頃シカ有ケム、飛州志ニ、是ヲ奇稱ノ神
 祠トシテ、諸神根元集ヲ
 引ケルハ一
 笑スベシ、

産土神諏訪大明神

祭神 建御名方富神 上諏訪
 八坂刀目命神 下諏訪
 境内一段二畝歩

祭日 氏子

諏方明神ハ大八賀郷漆垣村ニ詳記シヌ、勸請來由年歴未詳、

薬師堂

本尊
 境内二畝十二歩

地藏堂

本尊
 境内一畝十歩

地藏堂

本尊
 境内十八歩

松林寺跡、古シハ八賀郷八箇寺ノ其一也、開基廢寺氏年代未詳、

今モ當村^ツ民、兵右衛門ノ家名ヲ、松林寺トイヒ、其家ノ傍ナル橋
 ヲ、松林寺橋ト云、飛州志ニハ、下保村ニ在ト此松林寺ノ祖像^{達磨ハ廢寺}
 後、高山素玄寺ニ安置ス、^{シカレバ此松林寺ト、下田ノ}
 雁ヶ坂 ^{正宗寺トハ禪宗アリシヤ、}

新張村ノ中央ヨリ上野へ上リ三福寺村へ通フ路也名義不詳

小八賀川 東方町方村ヨリ西流隣村下切村枝村逆卷ニ至

松林寺橋 ^{新張村ヨリ下保村法吉へ掛渡セリ}
 関干附長 幅

上野 ^{春ハ蕨アリ、蓮花躑躅ノ花盛ニハ、イト壯觀也、}
^{秋ハ初耳 濕地草等生出ル}

下保村 ^{枝村法吉}

高二百一十一石一斗六升九合 ^{縦二十町 横二丁ヨリ五町}

山林段別本數不詳 前同

家三十三戸

人二百十餘人

産物 ^{大マエ六十ノ目 エ九斗 ナタネ四斗 麻 楮六十六ノ目 山トリ二十}
^{小マエ百廿ノ目}

東方桐山村へ十八丁 ^{吉城郡 三川村へ廿丁 高山一里十八丁}

南方橋向細越村へ八丁 ^{吉城郡 柏原村へ一里}

村ノ名義ハ ^{國号考ニ、富ハ假字ニテ、凡テ物ニ包マレ、コモリタル處ヲ、イハ}
 ル古言ナリ、サレバ山ノ周^ル由ヲモテ、負^ル名之ク、應神天皇^{葛野}ヲ望坐テ、ヨマ

米二百四十石
 五六十石
 大キ九十石
 小キ九十石
 大豆十六石
 小豆十六石
 八石
 キハ八石
 ソハ六石
 大豆二斗
 胡麻五升
 菜タネ四斗
 畑芋八斗
 白子二十石
 芥一ノ目
 粟ハ三千二百ノ目
 アサヲ三十三ノ目
 楮六十六ノ目
 桃二斗
 李四斗

梨八斗
栗二石二斗
枳二十四石
榲五斗
櫛八斗
大マユ六十目
小マユ百二十目
筵三十束

△和訓葉中云保古ハ
郷村ノ外ニ莊ト稱シ
保ト稱スルアリ東鑑ニ
丹後國志云保伊保
保拾芥抄坊七十二坊
保三百保明律保者
古郷社之林猶クハシ
ク出タリ

セ玉ハル大御歌ニ知波能加豆奴素美礼婆、毛知陀流、夜途波母美由、久
尔能富母美由、トアルハ、葛野ノ辺ハ、今ノ平安京ノ地ナレバ、山ノ周リテ包ミタル
中ニ在テ、山代國ノ奥區ナルヲモテ、國ノ富トクマヘルニ、倭建命ノ御歌ニ、ト
アル如ク、此村ノ北ニ、千光寺ノ高山聳テ、周リ包ミタル奥區ニ、下ハ上ナル
奥區ニ、對テ云ルナルベシ、美濃國 六上保中保下保ト云村名アリ、間ニ之ヲ添テ、

産土神白山社

祭神 境内一畝廿八步 此白山社モ越前ノナルベシ

祭日 氏子

阿弥陀堂

本尊 境内一畝十步

薬師堂

本尊 境内一畝十步

袈裟山千光密寺

開基年代未詳永祿七甲子年焼失
天正十五丁亥年金森法印再興

高野山金剛峯寺丹生院末

本尊千手観音
境内五段四畝廿七步 永祿七甲子年マテハ一山十三坊アリ今ハ本寺一寺ノミ也
山林二十五町九畝六步
一頭両面堂地一畝廿五步
観音堂地二十步
愛宕宮地二十步

祭神火之迦具土神

日本紀神代卷云
軻遇突智突智書曰火屋靈

祭日

寺説云、飛州人皇十七代、仁德帝ノ御宇、此國ニ宿禰ト云モノアリ、同

郷出羽ガ平ノ窟中ヨリ出現ス、其身長十八丈、一頭両面四脚也、是

救世観音ノ應化ニシテ、則當山ヲ開、

是ハ文盲ナル僧等ノ傳説也○日本紀卷第十六大鷦鷯後御證 仁德天皇

御紀云六十五年、飛驒ノ國ニ有一人、曰宿禰、其為人、壹體有

西面、面各相背、頂合無項、各有手足、其有膝而無臍、踵力多以
輕捷、左右佩劔、四手並用弓矢、是以不隨皇命、掠畧人民、為
樂、於是遣和珥、臣祖、難波、根子、武振熊、而誅之。此武振熊命ノ
老名將ニテ勇
武ナリシコトハ三福寺村ト有テ、元來朝敵國賊ナレハ、當昔ノ國
造其他ニ誅罰セラレムコトヲ恐レテ、平生ニ出羽カ平ノ窟中ニ
隱棲テ、カクレスミ
允テ山賊ナドノ隱家ノコトハ
繪草紙ナドニテモ想像バシ夜ハ潜ニ村里ニ出テ、人民ノ食物
財貨ヲモ、奪掠ナドセシガ、追クニ部下ノ奸賊氏モ、蕃滋テ、諸共ニ
窟中ニ忍ビ住テ、暴惡不止、終ニハ國造ノ威カヲモ、畏憚ラザリシ
故、朝廷ハ奏言ラレ、武振熊命、詎多ノ官軍ヲ將來テ、征伐玉ヒ
シ成ヒシ然ルヲ此寺代々ノ僧等ハ、鎌倉マタ足利代、ノ乱世ニ逢テ、日本ニハ

日本紀其他、古史國典ノ傳ハルコトヲ、夢ニモシラス、——宿儺ハ、朝敵氏
國賊トモシラテ、身體ノ不仁ナルヲモ論ハズ、希代無類人ナレハ、サカサメテ救世
觀音ノ化身ニモヤアラムト、佛法東漸ノ年代ヲモ辨ヘズ、言傳ハ來シ安
説ナラム其由縁ハ、宿儺亡ビテ後、百七十餘年ヲ經テ、欽明天皇ノ
十三年ニ、初メテ百濟ヨリ、佛像佛器、及ヒ經卷ヲ、朝廷ハ奉リシテ、日本
紀其他諸書ニ著明シ、浮屠氏ノ妄作、年代ノ前後ヲモ辨ヘズ、愚民ヲ
誑カス、惡ムベシ、佛法東漸ヨリ、百七十餘年以前ニ、イカテカ觀音ノ、
ウカクト世ニ出ベキ、セヲ救フ觀音ガ如何ニ化身ナレハトテ、人民ヲ猥ニ
掠略テ、佛意ニ慥フ物カハイトク、カスメ
カサメ宸忽ナル妄作、笑フベキコト、則チ
當山ヲ開トイフハ、當昔賊ノ巢穴ナリシト云意ニヤ、不審、

于時山頂ノ土中ニ、一ツノ石棺アリ、其中ニ、法華經一部袈裟一帖、千手觀
音ノ像一軀ヲ得タリ、故ニ此山寺号ヲ稱、

世ニ類ヒナキ、靈場ト稱レム為ニ、カ、ル虚説ヲ儲ケテ、痴人ヲ化シ来レ
ル、方今日本紀古事記ハカラシ、國史古書ヲ、遍クヨム世ニ成ヌレバ、誰
リハカ、レ拙劣ナキ虚言ニ、誑カルベキ、抑百濟ヨリ、仏像仏器經卷ヲ、
朝廷ニ献上シ御代ヨリ、百七十餘年已前ニ、是ハ法華經ニ、是ハ即袈
裟ト云物ニ、是ナム異國ニ名高キ、觀音ノ御像ト誰カ判斷
セム、抑亦其等ヲ、不知世ニ、誰カ守護シテ、百七十餘年後ニ、仏法ノ
渡リ来ルヲ、心長ニ待バキヤハ、可笑シク、

其後越ノ大德泰澄、或ハ真如皇子、開基シ玉ヘリ、

前ニハ、西面宿禰當山ヲ開クト云テ、此處ニハ、越ノ大德云ノ開基シ玉ヘ
トハ、何ノ事ゾモ、宿禰亡ホサレテ後、三百四十餘年ハ、空山タリシ
ニヤ、泰澄ハ、稱徳天皇ノ神護景雲元年三月十八日化セシ、
元亨秋書ニ出タリ、夫ヨリ又、四十四年後、嵯峨天皇ノ弘仁二年、
高岳皇太子ヲ廢セラレテ、親王ト成玉レ、同十三年、四品ニ叙セ
ラレ、其後僧ト成玉レシ由ク、○大日本史第九十卷平城天皇
皇子列傳云、廢太子高岳、初、為親王、大同三年、賜山城久世郡、
地六町、嵯峨帝即位立テ、為皇太子、明年藤原仲成伏誅、太子
廢為親王、弘仁十三年叙四品、無幾落髮為僧、更名真如居東寺、
研究真言宗、為阿闍梨、承和二年云々、三年如唐、求法、在唐十餘年、

不返、元慶五年、字問、僧中權、自唐上牒、告高岳赴西域、至羅越國、
而薨、帝下詔痛惜焉。和漢合運曆日至 猶此皇子ノ傳ハ、諸史ニ詳之、
見テ知ルベシ、サレド本土ニ來玉ヒシハ、更ニ見エズ、真言宗ヲ、
研究シ玉ヒシヲ聞テ、牽強附會セシ成ベシ、開基ハ誰カ詳ナラネ
ド、弘仁七年、僧空海、高野山ヲ開キテ後ナルベシ、

然ルニ天文永祿ノ頃ニ至リ、國士等、甲州ノ武田、越後ノ上杉ニ屬シ、
両旗トナリ、州内ノ兵亂止時ナシ、

江馬左馬助時盛初ハ越後ニ屬タリシガ永祿七甲子年、其二男圓
城寺善立ヲ甲州ヘ遣シテ武田ニ從ヒ其年廣瀨山城守宗域
モ武田ヘ使ヲ通ゼシト也

既ニ甲兵當山ヘ攻入、伽藍悉ク兵火ニ罹リテ、此時廢寺ト成、

殿村圓城寺、還俗シテ江馬右馬允ト名乗、甲將山縣三郎兵衛

昌景ノ嚮導シテ、數百騎ノ軍勢、廣瀨宗域モ來會シケム、永祿七甲子

年七月町方ニテ勢揃シテ、當山ヘ攻上リ、火ヲ放テ、堂宇一山

十三房殘ラズ、灰燼ト成、衆徒敗北シテ、悉散走セシトナリ、

然ルニ天正年甲ニ及ヒ、舊寺離散ノ僧、普門院ノ虎輝、

觀智院ノ玄海、他邦ヨリ本土ニ歸來テ、彼廢寺跡ヲ、再

興スル處也、

天正十三乙酉年八月、金森侯父子ノ軍勢、南北ヨリ攻入タマ

ヒ、高遠松倉落城シテ、三木氏亡テ後、金森侯高山城ヲ築キ、

天正十六戊子年、金森兵部御法印、入城マシクテ後、鷹狩ニ
在、所、見回玉ヒシ頃、此千光寺ノ事ヲ聞シ、再興ノ志ノ
衆徒アラバ、助成ヲ加フベシトノコナレバ、北ノ房久昌院承リ、後
来ノ國士トヒニ謀リ、信州ニ隱レ住メル、玄海亮輝、二人ニ通
達シテ、帰國セシム、玄海ハ國分寺ノ住侶ト成、亮輝專順
ハ、袈裟山ノ焼跡永祿七年ノ兵火ヨリ天正十六年
マテ二十五年ノ星霜ヲマテニ、寺院ヲ再興リ、
除地帳ニハ天正十五年金森法印再興
除地トアリ前年斧始有テ翌年成シニヤ
ハハ賀郷、坊方、下坊、以下村
コエ、修理職料ト為ラレシトナリ、

仍テ亮輝ヲ以テ再興第一祖ト稱セリ
亮輝ハ元和元乙卯年正月十
五日示宗七十一歳○玄海ハ寛
永二乙丑年六月廿四日
示宗八十七歳

一頭両面堂

桁行
梁間

両扉
土藏構
西庇

宿儺石像

身長六尺

餘甲冑ヲ着
弓矢ヲ持帶劔

此西面宿儺ハ、寺説ニ註セルゴトク、皇命ニ隨ヒ奉ラス、人民ヲ掠
略セシ、朝敵國賊ナリシニ依テ、朝廷ヨリ、將軍ヲ差越サレテ、誅
伐シメラレシハ、所謂天誅ヲ蒙リシニ、然ルヲ、海内諸國ハ云々、
通信ノ異國迄、對シ、飛驒宿儺ハ、萬世不朽ノ耻辱ヲ得タル國
賊ナラスヤ、其ヲ後世ノ奸僧等、仏法東渡、前後ノ年代ヲモ辨
ハス救世觀音ノ應化ト偽リ、末代マテ、公然ト其像ヲ造リ、堂
内ニ安置シテ、參詣ノ諸人ニ礼拝サセ、賽錢ヲ貪ホリ、
朝廷ヲ少モ恐レガルハ、甚シキ狡黠ナラスヤ、又享保年中ノ縣令、

飛州志編集ノ頃、日本紀ヲ熟考モセス、寺説寺記ヲ尤ナリト心得、惡ヲ匿シ、善ト為ムト思ヒシニヤ、事實ヲ思惟セズシテ、却テ祥瑞部ハ入シハ、イトノカタハライタキ、所為ナラスヤ、

觀音堂

本尊千手觀音

再興棟札飛 聖主天中天、迦陵頻伽声、哀愍衆生者、我等令敬禮、奉再興當國、大守、金森長門守源朝臣頼直、武運長久如意満足所、去永祿七甲子年七月十八日、甲州武田、軍勢、乱入當山、放火不殘、堂舎一字、悉燒失、然經二十五年、春秋、于時普門院、亮輝、總雖取造條、膏、堂舎、星霜既久、今建立所、萬治三庚子年九月吉日、奉行森與三左衛門尉直次、大工頭中井甚次郎、権大僧都法印舜慶書之、
永祿七年燒亡、二十五年後、天正十六子年、亮輝再興、其五世舜慶代、萬治三子年、八十七三年後也、萬治三子年ヨリ、明治三子年マテ、二百二十一年ニナレリ、

御笏木獻上

荏野冊子 位山 卷 云、後水尾天皇御宇御代、元和二年ノ春、千光寺玄

海阿闍梨、傳奏廣橋大納言兼勝卿ニツキテ、御笏ノ材ヲ奉レリ、

千光寺記ニ云、予就老耄、國分寺、讓與大阿闍梨尊雄、隱居觀

音院ニ云、古累代令調進笏木中絶之條、當今御代、再繼絶

興廢調御笏木、示尊雄阿闍梨、以傳奏廣橋大納言捧之、法孫

沙門勿令懈怠、云々トアリ、玄海ハ元袈裟山千光寺中、寶光院ノ

住僧カリ、永祿七年、甲子ノ七月 十八日 武田カ士卒、飛驒國ニ發向シテ、

千光寺ヲ燒亡セリ、カクテ玄海等、信濃國ニ退テ、廿餘年ヲ歴シ

テ、寺跡ニ歸リ、昆弟普門院亮暉ニ、千光寺ヲ再興セサシメ、玄

文龜四年甲子國司姉小路基綱卒到無復貢者然
于元和二年丙辰凡計一百十又三年
今進上也余稱嘆之故加裝禱壽億萬年重作銘曰
如斯三篇 餘所未傳

珍祠輝土 美莫盛旃

元文五年庚申四月廿三日

飛濃郡吏藤原忠崇親識署印證成

荏野丹子ニ出タルヲ、又コ、ニ寫シ出シツ、長谷川氏ノ銘ニ、
珍祠輝土アルハ、一宮ナラテハ、イカバノ心チスメリ、

千光寺記

此記ハ、元和七辛酉年十一月、袈裟山千光寺、再興三代住僧、玄海カ
著書ナリ、其玄海ハ、永祿七甲子年七月、甲州武田ノ軍勢ハ責
來タリシヲリ、防禦セシ僧ナリシガ、放火セラレテ、逃去、信州ニ
潛匿レテ居シガ、二十五年ヲ歴テ、天正年中、金森侯、國中平治
ノ後、便ヲ得テ、亮輝ト氏ニ立帰リ、亮輝ハ其燒跡ニ、堂舎ヲ再
建シテ、住持トナリ、玄海ハ國分寺ヲ、住持シテ、塔ヲ建タリシガ、其
後國分寺ヲ、尊雄ニ譲リ、此千光寺内、觀智院ニ隱居セシガ、其後千光
寺ノ住持ニ、元和二丙辰年國分寺、尊雄ニ示シテ、其頃一宮ノ守護ヲ、
千光寺ニ兼帯リ、御笏木ヲ、
禁廷ハ献上シテ、國司姉小路基綱卿ノ、御笏木獻エハ、
雪玉和歌集ニ出其先例ニ依テナリ、其後千光寺記ヲ、

作シヨシク、其ハ日本紀ヲ始メ、歴朝、國史古書類、イマダ刊行成ル
以前ニ、ソカ子シ僧ニシアレバ、國史ヲ知ラザルハ、尤ナレド、上古ノ年代前
後ヲ、更ニミラズ、高津宮神謚天皇ノ、八十七年天下シロシメシテ、崩御
マシクテ後、三百八十餘年ヲ経テ、桓武天皇ノ御代、延暦ノ初ニ、九
テ御代ニ、ノ天皇ハ、漢様ノ御謚ヲ、淡海ノ真人御船ニ、勅宣アリテ
撰テ上ラレシトヲモ、御代ニマシク、ル間ノ、御名ヲモ、夢ニモ知ラスシテ、
イマダ世ニ御生マサル、御前世ヨリ、御謚ヲ稱シ奉シト思ヒ、イ
ト恐クモ、高津ノ宮ノ天皇ト、朝敵國賊ノ宿敵トニ、釋迦カ末代ノ指
圖セシトナド作り出、其賊ヲ菩薩ト稱、又雄仁ト云廷臣ヲ作り、後マノ
御代ニ、遣唐使留學生等ノ、奏言ヲ聞召テ、唐禮ヲ用ヒタマヒテ、留學生

元正天皇御代養老三己未年二月初ノテ、諸官人ニ、把笏ヲシメ
玉ヒシトヲモ知ラス、高津ノ宮ノ天皇ヨリ、上代ノ天皇モ、スベテ用ヒ玉
ヒシト思ヒ、本土ハ南朝ヨリ、國司ヲモ、立オカレシトヲモ知ラス、イトカシ
コクモ後醍醐天皇ヨリ、後ノ御代マデニ敵奉リシ、足利ヲ尊敬テカ
ヘリテ南朝ノ君臣ヲ、朝敵ト記シタルト、讀ツ、見レバ、イトク思ヒシ久
恐多キ事ノミナレバ、飛州志ニハ、善惡邪正ヲモシラス、入タレド、此後風
土記ニハ、憚リテ省キツ、名義ヲモ、國體ヲモ、條理ヲモイサ、カワキマ
ヘヌ、玄海ガ罪ハ、両面、宿敵ニ等カルベシ、又元和以來ノ、國守モ、縣令ハ
タ属吏モ、國中數万ノ賤民ハ、云ニ及ハズ、國中ニアル飛驒治乱記、其
千光寺記トノ、二書バカリノ珍書ハ、世ニ又アラジト思ヒテ、家ニ秘

持タルハ、豈昏愚ノ至ナラズヤ、

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

佛法僧鳥

仏法僧鳥ハ、此山中ニ住テ、首夏ヨリ秋マデ、毎曉ニ鳴トゾ云傳ス、

和訓栞中云、編仏法僧鳥ハ、紀州高野山ニアリ、大カ鶉ヨリハ小也、脊

モエキ色、羽サキ黒色ヲ雜ヘ、嘴赤ク太ク、足モ赤シ、爪前ニ二ツ、

後ニ二ツ有テ、夜陰ニ雄佛法ト鳴、雌ハ僧ト鳴也云々○在

野丹子卷ニマソホ、ス、ヒ云、弘法大師ノ聖靈集神闕抄卷第十ニ後夜間佛

法僧鳥

閑林ニ獨坐、草堂ニ曉、三寶之聲聞一鳥、一鳥有聲入有意、聲

心琴作性雲水俱了、栞云、惺窩先生、性灵集中第一下セリ、釋運敵力抄ニ、仏法僧鳥、典籍所

載、未有所見、余嘗親聞于南山摩丘峯上、其聲似呼、仏法僧ト也、

或曰此詩於南山龍光院所咏焉或曰於内州高貴寺所製也

アリ、猶日枝、松尾、下野國、二荒山、飛驒國、東信濃境、連、高岳ノ辺、袈裟山、大

郡ニアリ山ニナドニ鳴、云々肥後國八代郡、金海山釋迦院ト云、山寺ニ

千光寺アリ、ハ、毎年四月十五日ヨリ、七月十五日ヲ限トシテ、其声聞ニトテ行テ一宿

ニ大概キカテ帰ルハナシ、仏法僧ト呼声イト清亮ニテ、山林ニ響ワドレリ

云々、此寺ハ、桓武天皇ノ御願ニテ、開山ハ、善善大師ト云リ、○日本紀略

第一卷三十三云、醍醐天皇延喜十八年、八月十三日癸丑、右大臣忠平、於五條

家限、五日十座講說法華經、仏法僧鳥來鳴樹上、令文人詠詩、十四

日甲寅夜、五條穗子后、宮講説之間、仏法僧鳥鳴松樹上、在坐詩人賦詩、

仏法僧鳥ハ深山ニ住ル鳥ナレバ、京城ニテ鳴シハイト不審ナリ、○躬恒集ニ、延喜十八年、八月十三日紀略同、時ナルガシ

右大臣ノ家ニハ講スルニ、仏法僧ト云鳥ノ、鳴ケレバ、ヨミテ奉レル歌、

足引ノ山ニ住ラム、コノ鳥ハ、イヘニヤハナク、イカナレバ、繁キ林、多カルヲ、

高キ梢モ、アマタアレド、ハネ打羽ブキ、飛過テ、春夏秋冬ノ時マアルヲ、君ガ

秋シモ、紅葉ノカラ吳監ニ振出テ、ナク音ヲ里ニ、キカセ初ツル、

山ニスミ、マレニキユエル、鳥ナレド、里ニモ君ガ、秋ヨリツナク、

其ヒトモ、君ハ告シモ、セシ物ヲ、イカテカ鳥ノ、カネテ知ケム、

殿、忠平カヘシ、左衛門尉ミナモトノナリタマフ、御使ニテ、

法ヲ思フ、心シフカク入ヌレハ、サトクモ鳥ニ、ミエズ有ケム、ト見エタリ、

カ、ル高貴ノ人ニスラ、僧等ニハ欺ヒ法華經ノ功德ニ因テ、深山ニ住ル

鳥サヘモ、飛来テ鳴ヌト、詩歌ヲモ、咏セ、テレシナラム、○新六帖、光俊、

躑躅ト云モノ有、其花盛ニ人戯テ云、カノサ花ニ北月ヲアテ、アブレバ、イト
暖^{アツク}、試玉ト、俊来教ノマ、ニシタルニ、春日ノ影ウツロヒテ、イカニモ暖ナル
ヲ、日影ト思ハテ、誠ニ花ノ故ト、悦ビシトナム、又或人アサムキテ、坂ヲ登ル
ニハ、牛馬ノ如クハロテ登レバ、苦シゲナシト云ルヲ、マコトニシテ、袈裟山ノ
麓ヨリ、八丁ノ間嶮坂ヲ、ハヒ登リケルガ、是ハ人ノ云シニ似ズ、イト苦
シトイヘリトゾ、如此愚直キ人ナレバ、圓空モ悦ビ交ラレシナルベシ、
是^ヒツ本^ヒ土^ヒ人^ヒノ本性^ヒ、千光寺代^ヒノ住僧モカ、ラマシカバ、
至愚ナル人ヲアサムキ、空言ヲ世ニ傳フルトモ、ナカラマシヲ、○畸人傳ノ画ヲカキ
タル、京師ノ花顛三態、思孝、寛政ノ頃、此千光寺ニ来遊テ、隙^{フマ}ニ得
意ノ、彩色ノ櫻花ト、一面ニハ山水トヲ書テ、今ニ存セリ、號サヘモ、
花顛ト云シ人ナレバ、櫻花ノ画、凡ナラザルヲ、想像^{ゾシ}、ニ

八町坂

此千光寺ノ麓、下保村ヨリ、登ル坂道ヲ、八町阪ト云、一町毎ニ目標ノ
石地藏ヲ建タリ、阪ノ傍ニ、五本杉トテ、根ハ一ツニテ、五本並立ル名木アリ、

山門

八町阪ヲ登リ果レハ山門アリニ玉ヲ安置セリ後ニ元禄^ニ年中僧圓
空ノ鈔^{ナカ}製^{ハカリ}ノ大ナルニ玉ヲ立タリ

鐘銘

聞鐘^ニ声^ニ、煩惱^ニ離^ニ、地獄^ニ出^ニ、火坑^ニ速^ニ、成佛^ニ度^ニ、衆生^ニ、厥飛^ニ、州袈裟^ニ、山千
光寺^ニ、因禍^ニ、乱^ニ、堂塔^ニ、諸伽藍^ニ、悉焰^ニ、滅^ニ、欽歎^ニ、之餘^ニ、國王^ニ、三木直頼^ニ、朝臣^ニ、大
和守^ニ、建立^ニ、之^ニ、其志^ニ、為^ニ、菩薩^ニ、成^ニ、願^ニ、主^ニ、謹^ニ、奉^ニ、鑄^ニ、鐘^ニ、令^ニ、寄^ニ、進^ニ、之^ニ、者^ニ、也、

天文十五年丙午小春日、沙弥弘順、大工能州中井、住、藤原、川崎
次郎右衛門吉久、トアレハ、天文年中ニモ、火災アリシ、其時ハ三木直
頼建立セシテ、此鐘ヲ鑄レハ、天文十五年ニテ、甲州武田ノ兵士ハ放
火永祿七甲子年十九年ニハ、僧徒此鐘ヲ外外シテ、逃散セシ成ベシ、
書寫大般若經後書

奉施入九頭大明神御宝前、始自文永八年正月晦日、至建治
元年、終書寫功、願主左衛門少尉橘、頼綱、

右二部者濃州郡上郡、九頭大明神有之、當國本所自綱、御出
馬之時取之、當山、觀世音、寄進、天正元年癸酉八月、檀那川尻

新之丞利廣 飛州志云、橘頼綱未由未考、當國本所自綱ハ、三木大和守之、
川尻利廣ハ、其家臣也、郡上郡ハ何村ゾモ

千光寺山 諸木 羅

小八賀郷ノ、北ノ極極ナル高山ニテ、陰ヲ塞、陽ニ向ヒ、一山地理モ能コエ、
水モ乏シカラズ、樹木繁茂セルニ、代々ノ住僧、年々杉ノ苗木ヲ數
多植ソヘテ、年々成木シ、又自然生タル、松、姫子、諸木トモ、繁茂アヒ
タリ、元来高山ナレバ、セラカセ 比加介一云 佐流半加セ老樹古木ノ枝ニ、ハヒカリ、諸鳥モ
ムラカリ栖リ、二十五町餘除地ノ山ナレバ、諸木ヲ連々山師ニウリテ、
其代ヲ得テ、寺費ニ充、國中ニ雙ナラハナキ、名山ノ古寺也、

男女木

本堂ノ脇ノ山上一町ハカリ上ニ木アリ目通り四五尺ハカリモ
有ベシ其木幹ノサマ男女交接ノ貌ニ似タレハ、男女木ト云

霧ノ海眺望

國內ニテ、年々秋ノ朝ゴトニ、霧ノ海ノ眺望ハ、山口村ノ郡上界山、吉城郡
八日町村篠休ヲ始メ、屢々ニアレド、此千光寺ニテ見ルゾ、最第
一タルト云傳ス、秋ノ夜ノ、ホノノト明ハテ、後、咫尺モワカタスマデ、
霧ノ夕チオホヒタル、少時マリテ、旭ノ出ルニ從テ、霧ハ漸クニ沈ミツ、
先ツ鞍嶽ト、馭嶽木曾ノ御嶽トイヘド、西北面ハ本益田郡ニ頂見エ初テ、川上ケ嶽白
山越ノ白山トイヘド、東面ハ本益田郡ニ、頭出テ、渺茫トハルカニ廣キ、雲ノ海面見
渡シタル間ニ、朝日ノオヒノ、昇ルマ、ニ、位山、船山、櫻洞ノ御前
山、郡上界、編笠山、十二ヶ嶽、又右ノ方ニ、源氏ヶ嶽、松倉山、彦谷山、
見量山等、海底ヨリ次第ニ浮ビ出、其餘ノ高山ノ、ツギノ、ニ現

レテ、見渡サル、サマハ、舟コソ無ケレ、陸奥ノ松島ノナガメモ、如此アラムカト、思
ハル、バカリ成トゾ、秋ノ暮ノ移テ易キマ、ニ、雲ハ自然、海底ニ沈ムゾト
見ル間ニ、正午ニモ成マレバ、イツノマニカハ、消失ケム、イサ、カモ、雲才
ノ餘波モナク、小八賀ノ山川村里、大八賀郷、灘郷ノ山ノ村、
マテ、明ニ見エワタリテ、夢ノ覺タルコ、チストナム、言ツタヘタル、

柏原、瀧 氷草

千光寺ヨリ東北ノ山路ヲ登レバ、嶺アリ荒城ノ柏原村ニ通路ナレバ、柏
原峠ト云十町ハカリ下リテ荒城川ノ橋ヲ渡リテ柏原村アリ
其後山ニ瀧アリ千光寺參詣ノ輩ハヨキ序也トテ
タクハ瀧ヲモ見テ歸ル故ニ俗ニ千光寺ノ瀧ト云千光

寺ノ名高キ故ニ他郡他村ノ瀧マテモ寺ノ什物ノ如言ハヤス
ナリ、其瀧ノモトナル、笹原藪中ナドニ、盛夏ゴロ、氷草ノ生ル
トアリ、其ハ鉢植ノ、福壽草ノ長ハカリニテ、花モ葉モ莖モ真
白ニテ、氷ノ如ク見透草也、高山ナドハ根コジテ、持帰りテモ、
三四日モ経レハ枯果テ、更ニ長クハ、保子ガタケレド、盛夏ノ鉢植ニハ、
イトモ奇妙ナル、翫種ニゾ有ケル、

枝村法吉 神社アリ

村名ハ、國名ノ伯耆和名抄云ノ如クモ聞エ、又出雲國島根郡ナル郷名、
法吉ノ如クモ聞エ、伯耆ナラバ、神名式ニ、伯耆國川村郡、波、伎、神社
諸國名義考ニ、アリ、又郷名ノ方ナラバ、出雲風土記ニ、神魂命御子、宇武賀比
クハシク見ユ

比賣命化法吉鳥而飛度靜坐此處故云法吉、○神名式ニ法吉神
社モアリ何レノ神ヲ祭レルニカ能々タツヌベシ

産土神

祭神
除地帳ニモレタルカ

小八賀川

東方細越村ヨリ西流吉城郡三川村ニ至



鞍嶽



御嶽のふれ
こころいそひ
えそれ
のまてこころいそひ
さやの海鳥を

十二嶽



御嶽

朝霧成海島

伊達政宗

山あいの

まろは

こあつ

海あて

たのしみ

まろは

松風の音

位山

舟山

櫻河
御前



千光寺



